

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 医学研究科 病院経営学・管理学専攻（P）

1. <設置の趣旨・目的等>
養成する人材像とディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めた上で、申請書上の関係箇所も適切に修正すること。（是正事項）…………… 3
2. <設置の趣旨・目的等>
カリキュラム・ポリシーに学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから、適切に改めること。（改善事項）…………… 17
3. <教育課程等>
審査意見1のとおり、養成する人材像とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの妥当性及び整合性が判然としないため、教育課程の妥当性も判断できないが、以下の点を明確に説明した上で、本学科の教育課程が、適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）…………… 21
4. <教育課程等>
シラバスについて、例えば、授業科目の「医療の質管理・患者安全・臨床倫理」の到達目標の記載や講義内容の記載が途切れているなど、作成途中のものが見受けられる記載が散見されることから、シラバスについて網羅的に見直すとともに、必要に応じて適切な記載に改めること。（是正事項）…………… 38
5. <教育課程等>
シラバスについて、例えば、授業科目の「リーダーシップ・ガバナンス」や「病院経営戦略論」などの準備学習に「事前課題への準備が必要である」との記載があるが、学生が具体的にどのような準備をすればよいのか理解できない記載となっている。このため、シラバスを網羅的に確認した上で、学生が当該授業科目を選択し履修するに当たって、事前にどのような準備学習が求められているのかが明確に分かるように具体的に示すこと。（改善事項）…………… 40
6. <教育課程等>
「設置の趣旨等を記載した書類」の中で、例えば、専門性と十分な実務経験を有する教員が基礎理論とその実践について講義する「基礎専門科目」のうち、「病院経営戦略論」は、経営戦略に関する基本理論等の知識及び事例検討を通じて『「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得し、病院経営の実践に活用できる能力を身につける』と説明されている。一方で、病院経営者としての知識・技能を修得させる「応用専門科目」のうち、「病院経営学演習」は、本演習を通じて、『「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得し、病院経営の実践に活用できる能力を身につける』と、同様の説明がなされており、「病院経営戦略論」が配置される「基礎専門科目」と「病院経営学演習」が配置される「応用専門科目」の差異が判然としない。また、シラバスについても同様の記載が見受けられることから、「基礎専門科目」と「応用専門科目」の教育課程上の位置づけや目指す到達目標の違い等について改めて明確に説明するとともに、学生が理解できるように記載となるように留意しつつ、必要に応じて申請書やシラバス等の関係箇所も適切に修正すること。（是正事項）…………… 41

7. <教育課程等>
履修指導、研究指導において、『7月下旬に課題レポートを提出し、8月中旬に「病院経営学・管理学課題研究成果物報告会」にて成果発表を行う』旨の説明があるが、課題レポートと課題研究成果物報告書の違いが判然とせず、また課題研究成果物報告書がどのようなものであるのか判然としない。課題研究成果物報告会は修了要件にも掲げられる課題研究の審査や最終試験の場となっていることから、課題研究成果物報告書について、課題レポートと課題研究成果物報告書の違いを含めて、改めて明確に説明すること。(改善事項)
..... 44
8. <入学者選抜>
本専攻は修業年限が1年6か月となっているが、当該期間の中で設定された課題研究を達成するためには、入学前から課題に対する十分な問題意識を持っていることや相応の解決方法が検討できていることが必要であると考えられる。このため、課題研究を含む教育課程における学びを修業年限期間中に修得することができる資質・能力を持った入学者を受け入れるに当たって、本専攻のアドミッション・ポリシーの妥当性を改めて明確に説明するとともに、当該アドミッション・ポリシーに照らして適切な入学者選抜となっていることを明確に説明すること。また、必要に応じて、アドミッション・ポリシーや入学者選抜等について適切に改めること。(是正事項) 47
9. <入学者選抜>
アドミッション・ポリシー2に掲げる「新しい病院の運営管理を推進する目的意識」の意味するところが判然としないことから、本専攻が入学者に求める「新しい病院の経営管理を推進する目的意識」について改めて明確に説明すること。(改善事項) 49
10. <教員組織>
専任教員数について、専門職大学院設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。(是正事項) 50
11. <その他>
分野別の認証評価について、本専攻の分野の認証評価機関は存在しないものと見受けられる一方で、申請資料として求めている、認証評価機関として想定される団体が文部科学大臣による評価機関の認証を受け、かつ当該専門職大学院が属する分野の認証評価を行う意思があること等を称する資料が添付されておらず、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載された「認証評価を確実に受けることの証明」においても、協議を行った認証評価機関から「別の認証評価機関や評価機関を別途設置するなど検討する必要がある」との意見が示されていることから、当該機関から分野別認証評価を受審することは困難と見受けられる。このため、関係する資料を提出するとともに、適切に認証評価を受ける見込みが整っていることについて改めて明確に説明すること。(改善事項) 51
12. <学生確保の見通し・人材需要の社会的動向>
審査意見1(1)のとおり、本専攻の示す「病院」が、急性期医療機関のような多くの診療科や機能、病床を持つ比較的大規模な病院を想定したものであるのか、クリニックのような機能や病床等が小規模な病院を想定したものであるのか又はその両方を想定したものが明らかではないが、教育課程のみを見れば、前者を想定したカリキュラム構成となっているように見受けられる。一方で、学生確保の見通しにおける定員充足の根拠となっている進学アンケート調査や人材需要アンケート調査は比較的大規模な病院から、クリニック等を含む小規模な病院まで混在しており、アンケート調査対象が適切に設定されたものであるか判断することができない。このため、これらのアンケート調査が、養成する人材像を踏まえた、適切な対象者による回答であることを明らかにするとともに、改めて客観的な根拠に基づき、長期的かつ安定的に学生確保の見通しがあることを明確に説明すること。(是正事項) 53

(是正事項) 医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P)

1. <設置の趣旨・目的等>

養成する人材像とディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めた上で、申請書上の関係箇所も適切に修正すること。

(1) 本専攻は「健全な病院経営のための課題発見能力及び分析能力ならびに課題解決能力を有する高度の専門職人材」を養成する人材を掲げているが、本専攻の示す「病院」が、急性期医療機関のような多くの診療科や機能、病床を持つ比較的大規模な病院を想定したものであるのか、クリニックのような機能や病床等が小規模な病院を想定したものであるのか又はその両方を想定したものが判然としない。養成する人材像が前述のいずれを掲げるものであるのかによって、病院経営者に求められる能力が相当程度異なることから、本専攻の具体的到達目標として定められたディプロマ・ポリシーの妥当性についても判断できないため、本専攻の示す「病院」の規模や機能等を明らかにした上で、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について改めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(2) (1) のとおり、ディプロマ・ポリシーの妥当性が不明確なため、カリキュラム・ポリシーの妥当性についても判断することができないが、例えば、カリキュラム・ポリシー1には「複眼的視点による効果を目指す」といった、対象や内容が不明確であるものの、ディプロマ・ポリシーを達成するために身につける能力の内容や到達度を示しているものとは見受けられず、カリキュラムを編成する方針としては不適当と考えられる表現が見受けられる。また、ディプロマ・ポリシー3に掲げられた「深い洞察と、世界を見渡す広い視野」に対応したカリキュラム・ポリシーが不明確であるなど、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性や妥当性も判然としない。このため、(1)への対応を踏まえて、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの整合性を担保した上で、カリキュラム・ポリシーの妥当性について、改めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(3) 上記(1)及び(2)について、それぞれ明確に説明し、必要に応じて適切に改めた上で、設置の趣旨、養成する人材像及び3つのポリシーの整合性について改めて説明すること。

(対応)

対応方針・概要

1. 対応方針

昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大時において、救急医療や高度急性期医療がひっ迫する事態が全国で生じる等、急速な少子高齢化の進展する中で国家的危機が生じて、国民が安心して質の高い医療を受けられるためには、医療現場で生じる課題に対応していく高度医療を支える病院が、安定的な経営基盤の基で質の高い医療を提供し続けることが極めて重要であることが、これまで以上に求められている。

このような医学研究科病院経営学・管理学専攻(専門職大学院)の設置に係る社会的背景と人材養成の意義を踏まえ、本専攻の示す「病院」の規模や機能を明記するとともに、人材養成の目標およびディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを明確にし、それぞれの関係性を整理し説明する。

これらの関係性について、「【別添】ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー・授業科目とアドミッション・ポリシーの関係」にて示す。

2. 概要

(1) について当初は本専攻の示す「病院」の規模や機能を明記していなかったため、審査意見を踏まえ、本専攻が養成するより具体的な人材像を再検討し、「病院」の規模や機能を「地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院」とすることとした。具体的には、地域医療支援病院制度（平成10年5月19日健政発第639号厚生省健康政策局長通知）が定める、患者に身近な地域において医療の確保を図る病院として救急医療を提供する能力に相応しい構造設備等を有する原則200床以上の地域医療支援病院や、地域の拠点となる高度急性期機能を有する特定機能病院（医療法施行規則の一部を改正する省令（令和三年厚生労働省令第六十三号））と明記した。これらの病院は、地域住民の生命や健康を守るために必要な機能およびそれらを提供するための施設設備や多職種の人的資源が多岐にわたり、それらを最大限に活用するとともに、財務的に安定的な経営を継続させることが求められる。したがって、このような規模や機能を有する病院経営や病院管理を担う専門人材には、病院経営の基本的能力に加え、我が国の医療制度の下で国際標準レベルの医療を実現させるための能力として医療制度や診療報酬制度の理解、さらには病院経営の実践において、現場で生じる諸問題を状況に応じて解決するための思考能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術、多職種の役割を理解し連携する能力等の病院経営学・管理学の学問領域に関する幅広い分野の専門知識と高度な実践能力が求められる。

また、本専攻が示す病院の規模や機能を明確にすることに伴い、学生となる対象を「地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の病院経営・管理の実務に取り組み、地域を支えるリーダーとなることを志す者、地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の医療専門職業等に就いており、病院経営・管理に関する高度の専門的知識や実務能力の修得を志す者」と設定した。

上記を踏まえ、養成する人材像とディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーについて明確に説明するために、関係箇所について説明を加えるとともに、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (3 ページ～12 ページ)

新	旧
<p>(2) 医学研究科病院経営学・管理学専攻（専門職大学院）の設置の必要性</p> <p>1. 社会的な背景</p> <p>ア 病院経営・管理の専門家の養成の必要性</p> <p>我が国の世界に類を見ない少子高齢社会および人口減少社会によって、地域における医療提供体制の変化に伴う医療機関を取り巻く環境は、これまで以上に複雑化している。たとえば地域住民の高齢化に伴う医療ニーズの変化への対応、人口減少地域における医療機能・診療体制の確保、医療技術の進歩やICT技術の発展等による医療供給の変化、複雑化する診療報酬制度等に対応する安定的・持続可能な病院の財務基盤および経営体制、働き方改革に対応する医療人材の安定的確保、新興感染症等の感染拡大や災害に対応できる危機管理能力、国際的競争力のある優れた医療の水準と質の向上等、これからの病院を取り巻く環境は大きな変化の真ただ中にあり、実践的な能力・スキルの習得のためのリカレント教育プログラムの充実が求められている。特に、社会人が学ぶ実践的な教育を支える実務家教員を活用し、専門的・実践的なカリキュラムの必要性はますます高まっている。</p>	<p>(2) 医学研究科病院経営学・管理学専攻（専門職大学院）の設置の必要性</p> <p>我が国の世界に類を見ない少子高齢社会および人口減少社会によって、地域における医療提供体制の変化に伴う医療機関を取り巻く環境は、これまで以上に複雑化している。たとえば地域住民の高齢化に伴う医療ニーズの変化への対応、人口減少地域における医療機能・診療体制の確保、医療技術の進歩やICT技術の発展等による医療供給の変化、複雑化する診療報酬制度等に対応する安定的・持続可能な病院の財務基盤および経営体制、働き方改革に対応する医療人材の安定的確保、新興感染症等の感染拡大や災害に対応できる危機管理能力、国際的競争力のある優れた医療の水準と質の向上等、これからの病院を取り巻く環境は大きな変化の真ただ中にあり、実践的な能力・スキルの習得のためのリカレント教育プログラムの充実が求められている。特に、社会人が学ぶ実践的な教育を支える実務家教員を活用し、専門的・実践的なカリキュラムの必要性はますます高まっている。</p>

<p>ます高まっている。</p> <p><u>これは、文部科学省が平成29年度大学教育再生戦略推進費「課題解決型高度医療人材養成プログラム」【参考資料1】によって、急速な少子高齢化の進展及び疾病構造の変化等が進む我が国の健康長寿社会を実現するため、日本再興戦略、健康・医療戦略等で掲げられた施策の展開を通じて、国民が安心して質の高い医療を受けられる医療提供体制の構築とともに、医療現場の様々な諸課題に対応していく高度医療を支える病院経営支援に関する優れた医師等の人材を、大学・大学病院における人材育成機能を強化してきたことから明らかである。</u></p> <p><u>内閣府「経済財政運営と改革の基本方針2022」【参考資料2】の「持続可能な社会保障制度の構築」において、「医療・介護提供体制などの社会保障制度基盤の強化については、今後の医療ニーズや人口動態の変化、コロナ禍で顕在化した課題を踏まえ、質の高い医療を効率的に提供できる体制を構築するため、機能分化と連携を一層重視した医療・介護提供体制等の国民目線での改革を進めることとし、かかりつけ医機能が発揮される制度整備を行うとともに、地域医療連携推進法人の有効活用や都道府県の責務の明確化等に関し必要な法制上の措置を含め地域医療構想を推進する。あわせて、医師の働き方改革の円滑な施行に向けた取組を進める。（中略）これらの取組について、今後、生産年齢人口が急速に減少していく中、高齢者人口がピークを迎えて減少に転ずる2040年頃を視野に入れつつ、コロナ禍で顕在化した課題を含め、2023年、2024年を見据えた短期的課題及び中長期的な各種の課題を全世代型社会保障構築会議において整理し、中長期的な改革事項を工程化した上で、政府全体として取組を進める。」</u>ことから、<u>2040年以降も我が国の医療体制の根幹を担う高度急性期病院および地域の医療を担う病院が国際標準の医療の質を提供し続けるために、優れた病院経営の専門人材を養成することの必要性が伺える。</u></p> <p>このような社会背景から、病院経営・病院管理に携わる医療機関の長や経営幹部職員は、高度かつ専門的知見を有する専門職であることが強く求められている。特に習得すべき能力は、<u>リーダーシップ、組織マネジメント、財務知識等の病院に関する経営的基本能力や、患者安全、病院建築・施設管理、医薬品・医療材料管理等の病院を運営するための管理能力、医療制度や医療産業等の病院を取り巻く医療政策に関する専門知識等、</u>多岐にわたる。地域の医療ニーズや将来需要に応じた病院経営戦略を立案し実行するリーダーシップはもとより、国際医療や海</p>	<p>このような社会背景から、病院経営・病院管理に携わる医療機関の長や幹部職員は、高度かつ専門的知見を有する専門職でなければならない。その中でも特に病院長や病院幹部職を担う医師が病院経営に係る習得すべき能力は、組織マネジメント、財務知識、診療報酬、病院管理、施設管理など多岐にわたる。地域の医療ニーズや将来需要に応じた病院経営戦略を立案し実行するリーダーシップはもとより、国際医療や海外連携等、国際水準で活躍できる病院長や病院幹部職を担う医師の専門教育は次の時代を担う専門職医療人として必要不可欠である。</p> <p>これまでの医学教育においては卒後を含めて十分な教育機会がないままに病院経営・病院管理の役割を担うことが慣行であった。しかしながら複雑な制度の下で健全な病院経営を続け、時代の変化と要請に応え続けるためには、体系だった教育に基づく高度専門能力の育成が必須である。</p> <p>このような時代の要請に根本的に応えるために、医学知識とともに病院を運営する専門職としての能力を有する高度専門人材育成を目的として、専門職大学院の設置を行う。設置する専門職学位課程では、リーダーシップや財務会計、診療報酬等の関連法規、病院設計・施設管理、国際認証等の病院経営学や、人事労務、医療安全、院内感染対策等の病院管理学、医療制度や医療産業等の医療政策学を体系的に修得し、病院経営演習による理論と実務を結びつけるカリキュラム構成により、時代の要求に沿った将来の病院経営を担う専門職人材を養成する。</p>
---	---

外連携等、国際水準で活躍できる病院長や病院幹部職を担う医師の専門教育は次の時代を担う専門職医療人として必要不可欠である。

これまでの医学教育においては卒後を含めて十分な教育機会がないままに医師が病院長や病院経営幹部として病院経営・病院管理の役割を担うことが慣行であった。しかしながら複雑な制度の下で健全な病院経営を続け、時代の変化と要請に応え続けるためには、体系だった教育に基づく高度専門能力の育成が必須である。

平成14年8月5日文部科学省中央教育審議会「大学院における高度専門職業人養成について」(答申)

【参考資料3】において、専門職大学院による高度専門職業人養成に対して、次のように期待されている。

(1) (中略) 大学院における社会的・国際的に通用する高度専門職業人養成に対する期待が急速に高まってきている。このような社会的要請は、特定の職業の実務に就いたり、職業資格を取得する者の養成についてのみならず、既に職業に就いている者や資格を取得している者が、更に高度の専門的知識や実務能力を修得できる継続教育、再教育の機会の提供に対するものも含め、様々な分野で高まってきている。

(2) 我が国におけるこうした高度専門職業人養成に対する課題と期待に適切にこたえていくためには、特定の職業等に従事する上で必要となる高度の専門的知識の習得や能力の育成等の実践的な教育を充実させることが極めて重要である。

このような時代の要請に根本的に応えるために、医学知識とともに病院を経営する専門職としての能力を有する高度専門人材育成を目的として、専門職大学院の設置を行う。設置する専門職学位課程では、リーダーシップや財務会計、診療報酬等の関連法規、病院設計・施設管理、国際認証等の病院経営学や、人事労務、医療安全、院内感染対策等の病院管理学、医療制度や医療産業等の医療政策学を体系的に修得し、病院経営演習による理論と実務を結びつけるカリキュラム構成により、時代の要求に沿った将来の病院経営を担う専門職人材を養成する。

参考資料1 平成29年度大学教育再生戦略推進費「課題解決型高度医療人材養成プログラム公募要領」

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/1384648.htm

参考資料2 内閣府 令和4年6月7日、「経済財政運営と改革の基本方針2022 新しい資本主義へ～課題解決を成長のエンジンに変え、持続可能な経済

を実現～」(骨太方針2022)
https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2022/2022_basicpolicies_ja.pdf
参考資料3 平成14年8月5日 文部科学省中央教育審議会「大学院における高度専門職業人養成について」(答申)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/020802.htm

イ 藤田医科大学大学院医学研究科に専門職大学院を新たに設置する意義

藤田医科大学は、世界大学ランキング2022にランクインし、国連が掲げる「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals(SDGs)」に関する世界で唯一のランキング「THE University Impact Rankings 2021」では、**good health and well-being**分野で、国内大学2位と評価されている。また、藤田医科大学病院は新型コロナウイルス感染症の発生当初より感染者を全国に先駆けて積極的に受け入れてきた実績を有しており(大岩 2022年1月)、国際病院評価機構(JCI)による国際基準の評価を受けている等、国家的危機のような社会の要請に迅速に応えるとともに、安全で質の高い医療を地域において提供し続けている。

これまで、本学医学系研究科医科学専攻(修士課程)により「新たな治療法、診断法開発を目指した基礎研究を志す人材」の養成を行ってきたが、病院経営学・管理学の人材養成は、目指す人材像、教育方法等の観点から異なる教育課程が必要である。また、既に病院の第一線で活躍している社会人が、働きながら専門的知識を学び、その成果を医療現場に還元していくことを主に想定しているため、平日夜間及び土曜日を中心とした授業の実施や、遠隔講義システムの導入など、社会人への対応を前提とした教育方法を用いる点においても、医学系研究科に専門職大学院を設置することが望ましい。藤田医科大学では、大学院教育においてオンライン教育環境が早くから整備されており、現場で働く医療従事者が専門教育を受ける環境が用意されている。**教育関連技術の進歩と教育方法の発展が相まって、今こそ病院の第一線で活躍している社会人に対する病院経営学・管理学の専門教育の実現性が整った。**藤田医科大学の教育実績と藤田医科大学病院の高い医療水準を有する実績を統合し、医学の発展や医療を取り巻く時代の要求に応え、我が国の医療の質を持続可能な形で支える病院を担う専門人材を養成するためには、既に病院の第一線で活躍している社会人に対す

る少人数教育を基本とした実践的な教育方法および実務家教員の積極的な活用を基本とする専門職大学院を新たに設置することが必要と判断したため、藤田医科大学大学院医学研究科に専門職大学院を設置するものである。

(3) 人材養成の目標

専門職大学院を設置するにあたり、ますます高度化・複雑化する医療ニーズに応えるため、かかる背景のもと、専門職学位課程においてもこの社会背景を前提とし、全国における地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の病院経営・管理の実務に取り組み、地域を支えるリーダーとなることを志す者、地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の医療専門職業等に就いており、病院経営・管理に関する高度の専門的知識や実務能力の修得を志す者に対して、社会において健全な病院経営を担う高度の専門的職業人を養成する。

例えば、一般病床を有する公立公的病院や民間病院において、病院の経営を担う病院長または副院長などの医療機関責任者及びその職に就こうとする者、または管理運営において中心的職位にある者を想定しており、特に、地域医療支援病院制度（平成10年5月19日健政発第639号厚生省健康政策局長通知）が定める、患者に身近な地域において医療の確保を図る病院として救急医療を提供する能力に相応しい構造設備等を有する原則200床以上の地域医療支援病院や、地域の拠点となる高度急性期機能を有する特定機能病院（医療法施行規則の一部を改正する省令（令和三年厚生労働省令第六十三号））は、地域住民の生命や健康を守るために必要な機能およびそれらを提供するための施設設備や多職種の人的資源を最大限に活用するとともに、財務的に安定的な経営を継続させることが求められる。このような規模や機能を有する病院経営や病院管理を担う専門人材には、リーダーシップ、病院経営戦略、財務会計、医療情報、医療の質管理等の病院経営の基本的能力に加え、我が国の医療制度の下で国際標準レベルの医療を実現させるための能力として医療制度や診療報酬制度の理解、病院建築・設備、国際認証、さらには病院経営の実践において、現場で生じる諸問題を状況に応じて解決するために、経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術、多職種の役割を理解し連携する能力等の病院経営学・管理学の学問領域に関する幅広い分野の専門知識と高度な実践能力が求められる。

専門職学位課程においては、このような地域にお

(3) 人材養成の目標

専門職大学院を設置するにあたり、ますます高度化・複雑化する医療ニーズに応えるため、かかる背景のもと、設置を準備している専門職学位課程においてもこの社会背景を前提とし、全国における病院長または副院長などの医療機関責任者及びその職に就こうとする者、または管理運営において中心的職位にある者に対して病院経営学・病院管理学・医療政策学を教育し、社会において健全な病院経営を担う高度の専門的職業人の養成を目的とした教育を行うものである。専門職学位課程においては、最終的なゴール「病院経営学・病院管理学・医療政策学・医学の知見と国際社会に通用する思考力に基づく、健全な病院経営の実現」のために、保健衛生分野に加え社会経済活動を担う病院経営を基軸とした病院経営学、病院管理学、医療政策学に関する高度専門知識の基盤を固め、健全な病院経営のための課題発見能力および分析能力ならびに課題解決能力を有する高度の専門職人材」を養成する。

この立ち位置のもと、本学修士課程の具体的到達目標を以下のディプロマ・ポリシーに定める。

<p>いて中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の病院経営・管理の実務に取り組み、地域を支えるリーダーとなることを志す者、地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の医療専門職業等に就いており、病院経営・管理に関する高度の専門的知識や実務能力の修得を志す者を対象に、最終的なゴール「地域社会に対する深い洞察と、国際標準の医療の質を見据えた健全な病院経営の実現」のために、病院経営学、病院管理学、医療政策学に関する基本的能力と高度専門知識の基盤を固め、課題発見能力および分析能力ならびに課題解決能力を有する専門職人材」を養成する。</p> <p>（４）ディプロマ・ポリシー</p> <p>本専門職学位課程を修了するに当たって、すべての修了生が修得すべき資質および能力に係る具体的到達目標を以下のディプロマ・ポリシーに定める。これらの能力を身につけ、学則に定める教育課程の所定単位を修得し、特定の課題についての研究成果に関する報告書（以下「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告書」とする。）を提出の上、「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告会」による審査試験に合格した者に、病院経営学・管理学修士（専門職）の学位を授与する。</p> <p>【医学研究科 専門職学位課程ディプロマ・ポリシー】</p> <p>医学研究科専門職学位課程では、1年6ヵ月在学し、所定の単位を修得し、病院経営学・病院管理学課題研究にて、以下の知識・技能・能力を修得したと認められる者に修士（専門職）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>病院経営学・管理学のコア領域「病院経営学」、「病院管理学」、「医療政策学」に関する専門知識・技能の基本的理解</u> 2. <u>地域社会への理解と高い倫理感を持つ医療人として、経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術、多職種の役割を理解し連携する能力</u> 3. <u>病院経営の現場で生じる課題を発見し、多職種連携の中核を担うリーダーとして、課題解決のために組織を動かし遂行できる能力</u> <p>本専門職課程を修了した者が、病院経営・管理に関する高度の専門的知識や実務能力をもって、修了後、地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の病院経営・管理の実務に取り組み、地域を支えるリーダーとしてその手腕を発揮することは、医療人としての医学知識・臨床経験と、病院経営学・管理学の両輪から病院経営の実践的課題に取り組む</p>	<p>【医学研究科 専門職学位課程ディプロマ・ポリシー】</p> <p>医学研究科専門職学位課程では、1年6ヵ月在学し、所定の単位を修得し、病院経営学・病院管理学課題研究にて、以下の知識・技能・能力を修得したと認められる者に修士（専門職）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・保健衛生学に基づく病院経営学・病院管理学・医療政策学に関する専門知識・技能 2. 自ら病院経営に係る課題を発見し、課題解決策を意思決定し遂行できる能力 3. 地域社会に対する医学・保健衛生学に関する深い洞察と、世界を見渡す広い視野
--	---

<p>ことが可能となる。学位課程修了前は、ややもすれば自身の医学知識・臨床経験に偏りがちであり、医療と経営の両立が困難だった状況から、学位課程修了後は、地域社会に対する深い洞察と、国際標準の医療の質を見据えた健全な病院経営の実現のために、病院経営学・管理学に関する基本的能力と高度専門知識と課題発見能力を有し、地域の医療ニーズや将来需要に応じた病院経営戦略を多職種と連携して実践できる能力を身につけ、それを現場で発揮できる専門人材を養成していく。</p> <p>(5) 修了後の進路</p> <p>病院経営学・管理学専攻専門職学位課程修了後に想定される進路の分野としては、病院における経営幹部としての実務を中核とし、医療経営・管理に関する研究、教育、行政に至るまで多岐にわたる。具体的には、公立、公的、民間を問わず病院における病院経営者または病院経営幹部、学術研究機関、国や地方自治体の行政機関、国内外における医療関連の団体組織および第三者機関などを想定している。医学・保健衛生学分野における病院経営学・病院管理研究の発展および将来において中心的な役割を担う専門職人材を養成することは、次代における社会からの要請に応えるために重要である。</p> <p>2. 病院経営学・管理学専攻の特色</p> <p>前述のとおり、本専門職学位課程では、全国における地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の病院経営・管理の実務に取り組み、地域を支えるリーダーとなることを志す者、地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の医療専門職業等に就いており、病院経営・管理に関する高度の専門的知識や実務能力の修得を志す者に対して病院経営学・管理学を教育し、社会において健全な病院経営を担う人材の育成を行う。</p> <p>本専門職学位課程では、病院経営学・管理学の基本的能力を修得するための体系的な授業科目による基本的能力の修得し、経営系専門職大学院で積極的に活用されている講師と受講生または受講生同士による議論を反復して行う実践的なマネジメント手法を訓練する教育手法を通じて、病院経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術を修得する。また、病院経営に関する学生自身の研究テーマについて、病院経営分析と経営戦略の策定および各戦略における解決方法に関する病院経営学・管理学課題研究等、少人数教育の利点を活かした教員による個別指導や他の学生とのディスカッションを重ねることで、病院経営の現場で生じる課題を自ら発見し、課題解決のために組</p>	<p>(4) 修了後の進路</p> <p>病院経営学・管理学専攻専門職学位課程修了後に想定される進路の分野としては、病院における経営幹部としての実務を中核とし、医療経営・管理に関する研究、教育、行政に至るまで多岐にわたる。具体的には、公立、公的、民間を問わず病院における病院経営者または病院経営幹部、学術研究機関、国や地方自治体の行政機関、国内外における医療関連の団体組織および第三者機関などを想定している。医学・保健衛生学分野における病院経営学・病院管理研究の発展および将来において中心的な役割を担う専門職人材を養成することは、次代における社会からの要請に応えるために重要である。</p> <p>2. 病院経営学・管理学専攻の特色</p> <p>前述のとおり、本専門職学位課程では、全国における病院長または副院長などの医療機関責任者及びその職に就こうとする者、または管理運営において中心的な職位にある者に対して病院経営学・管理学を教育し、社会において健全な病院経営を担う人材の育成を行う。</p> <p>我が国の病院経営環境は複雑化しており、医療制度および関連政策において、地域の医療需要に応じた医療提供について適切に対応することが難しく、さらに診療報酬制度改定に伴う収益の低下や医療従事者の人件費は増加傾向にある。病院経営学・管理学を修得した医療機関責任者及びその職に就こうとする医師免許取得者が、修了後、自身の所属する地域社会においてその手腕を発揮することは、医師としての医学知識・臨床経験と、病院経営学・管理学の両輪から病院経営の実践的課題に取り組むことが可能となる。学位課程修了前は、ややもすれば自身の医学知識・臨床経験に偏りがちであり、医療と経営の両立が困難だった状況から、学位課程修了後は、病院経営に係る課題において、客観的分析と課題解決策の本質を理解し実践することが出来、病院経営者として適切な意思決定を行うことができる。</p> <p>さらに、本専門職学位課程が、大学院医学研究科で</p>
--	---

<p>織を動かし遂行できる能力を養成する。このような教育を行う本専門職学位課程の担当教員の多くは実務経験豊富な教員であり、実務において指導的役割を果たしてきた。同時に多くの教員は博士号取得や学術論文発表も行っている。このように本専門職学位課程は、実務経験と体系的学問の双方を兼ね備えた教員が教育する体制を有する特色を持っている。</p> <p>さらに、本専門職学位課程が、大学院医学研究科で教育を行い、<u>医療経営学・管理学（専門職）</u>の学位を授与することに大変意義がある。本専門職学位課程は病院経営に<u>関する専門職に就くことを希望する者を養成する専門職大学院である。</u>わが国には公衆衛生専門職大学院が全国において設置されており、行政機関・研究機関・国際組織や企業等で科学的根拠に基づいた施策を立案し活躍できる公衆衛生専門家を輩出しているが、地域の現場では、医療の提供主体である病院の経営に携わる専門職人材も同様に求められている。また、医学研究科以外の研究科にも、医療機関や医療関連企業の経営を学ぶ意欲のある者に経営学を教育する「医療マネジメントコース」を開設している研究科が見受けられるが、その多くは事務職員や民間企業の社会人が対象であるため、企業経営の関連領域として位置づけられ、<u>人材養成の目的が異なる。</u></p> <p>本専門職学位課程は、医学・保健衛生学の中でも、病院経営に関わる医師が医学および臨床経験を土台とし、<u>病院経営学・管理学に関する高度専門知識との基盤を固め、地域社会に対する医療に関する深い洞察と国際標準の医療の質に関する視野を持ち、健全な病院経営を実践するための課題発見能力および分析能力ならびに課題解決能力</u>を習得する課程である。特に、実際に社会に貢献できる病院経営を主導できるレベルにまで教育するためには、体系的学問と実践的教育課程を前提とした専門職大学院レベルの教育が必要である。</p> <p>本専門職学位課程は、病院経営学・管理学を修得後、自身の所属する病院で経営手腕を発揮することを想定している。<u>本学位課程の特色である3つの領域に関する専門知識の理解と、既に病院の第一線で活躍している社会人を対象とした実践的教育手法を通じて、病院全体の活動を先導する多職種連携の中核を担うリーダーとしての医療人であり、病院経営を實踐できる能力を兼ね備えた専門人材のプロフェッショナル集団を強固に形成することは、次代に向けて国民が安心して質の高い医療を受けられる医療提供体制の構築とともに、医療現場の様々な諸課題に対応していく優れた医療人材の需要に応えるための教育を行う。</u></p>	<p>教育を行い、学位を授与することに大変意義がある。本専門職学位課程は病院における経営専門職に就くことを希望する者を養成する専門職大学院である。わが国には公衆衛生専門職大学院が全国において設置されており、行政機関・研究機関・国際組織や企業等で科学的根拠に基づいた施策を立案し活躍できる公衆衛生専門家を輩出しているが、地域の現場では、医療の提供主体である病院の経営に携わる専門職人材も同様に求められている。また、医学研究科以外にも、医療機関や医療関連企業の経営を学ぶ意欲のある者に経営学を教育する「医療マネジメントコース」を開設している研究科が全国において見受けられるが、その多くは事務職員や民間企業の社会人が対象であるため、企業経営の関連領域として位置づけられ、求められる専門性が異なる。</p> <p>本専門職学位課程は、医学・保健衛生学の中でも、病院経営に関わる医師が医学および臨床経験を土台とし、健全な病院経営を実践するために必要な知識および技能を習得する課程である。このような経緯から、病院経営に特化する専門的および実践的な教育課程「病院経営学・管理学専攻（専門職大学院）」を、医学研究科に新設し、健全な病院経営を志す医師免許取得者を養成することが必要である。特に、実際に社会に貢献できる病院経営を主導できるレベルにまで教育するためには、体系的学問と実践的教育課程を前提とした専門職大学院レベルの教育が必要である。本学位課程の担当教員の多くは実務経験豊富な教員であり、実務において指導的役割を果たしてきた。同時に多くの教員は博士号取得や学術論文発表も行っている。このように本専門職学位課程は、実務経験と体系的学問の双方を兼ね備えた教員が教育する体制を有する特色を持っている。</p> <p>本専門職学位課程は、病院経営学・管理学を修得後、自身の所属する地域社会の病院で経営手腕を発揮することを想定している。我が国の医学・保健衛生において、病院全体の活動を先導し、経営の中心的な役割を担う医療職の専門人材を養成し、プロフェッショナル集団を強固に形成することは、将来の医療需要を見据えた新時代に求められる医療人材需要に応えるために、極めて重要である。</p>
--	--

<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 教育課程の編成と考え方</p> <p>【医学研究科 専門職学位課程カリキュラム・ポリシー】</p> <p>医学研究科専門職学位課程では、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>1. 病院経営に求められる高度専門的な知識を獲得し、その基本的能力を養うため、「病院経営学」・「病院管理学」・「医療政策学」の3つの領域を基軸とした教育を行う。</p> <p>2. 病院経営の実践において固有の専門知識を要するテーマについて学修し、我が国の医療制度の下で国際標準レベルの医療を実現させるため、幅広い分野の知見を統合した問題解決能力を身につけるための教育を行う。</p> <p>3. 実際に生じた医療現場の課題に関する事例を用いて学生が相互にかつ自発的に討論を反復して訓練することで、病院経営における課題解決を経験し自らのものとする訓練を行う教育手法により、経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術を修得するための教育を行う。</p> <p>(1) カリキュラム・ポリシー1</p> <p>・カリキュラム・ポリシー1に基づき、米国およびカナダにおける病院経営学・管理学領域の大学院プログラム認定機関（CAHME）が例示するコア領域 Communications & interpersonal effectiveness、Critical thinking, analysis & problem solving、Management & leadership、Professionalism & ethics を基盤とする授業科目を、我が国の学問領域「病院経営学」、「病院管理学」にそれぞれ配置する。2年次には病院経営学演習を通じて病院経営の実践において組織を効果的に動かすために必要な人材マネジメント、多職種連携、病院組織の内発的動機付け、組織改革等の課題解決能力を修得することで、ディプロマ・ポリシー1に掲げる「病院経営学・管理学のコア領域「病院経営学」、「病院管理学」の高度専門知識の基本的理解」に到達する。</p> <p>カリキュラム・ポリシー1は必須科目として学生が全員参加する講義形式および演習形式によって、ディプロマ・ポリシー1を達成できるようカリキュラムが組まれている。必須科目は医療現場の第一線で活躍する社会人学生等の多様なニーズを持った学生が、時間や場所の制約を受けにくい教育研究環境で学修できるよう、一部の科目においてオンライン（同時かつ双方向性のあるリアルタイム配信）での講義</p>	<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 教育課程の編成と考え方</p> <p>【医学研究科 専門職学位課程カリキュラムポリシー】</p> <p>医学研究科専門職学位課程では、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>1. 病院経営学・病院管理学・医療政策学に関する科目を通じて、高度専門的な知識を獲得し、複眼的視点による効果を目指す</p> <p>2. 病院経営学演習による個別指導・グループ討議を通じて、病院経営において自ら課題を発見できる能力、意思決定能力、課題解決のためのコミュニケーション能力を修得する</p> <p>3. 病院経営を実践する専門人材として、意思決定者・リーダーとしての役割を担い、地域社会や国際社会に関する深い理解と高い倫理感を持つ医療人の資質を磨く</p> <p>このうち、カリキュラムポリシー1および2は各種講義および演習のあり方を説明するものであり、ディプロマポリシー2に対応する。カリキュラムポリシー1は必須科目である講義および選択科目によって、ディプロマポリシー1を反映し、学生の選択を尊重するカリキュラムが組まれている。すなわち、必須科目「病院経営学」、「病院経営学演習」、「病院管理学」、「医療政策学」では学生が全員参加する科目で構成され、選択科目「DPC・診療情報分析論」「医療機能評価・JCI」については2科目中より1科目を選択する。</p> <p>カリキュラムポリシー3はディプロマポリシー3に対応している。「病院経営学」、「病院管理学」、「医療政策学」は原則として事前課題、講義、グループディスカッションで構成し、必要な知識を体系的に理解する。「病院経営学演習」は豊富な実務経験を有する実務家教員の講師陣によるワークショップ形式にて行う。「病院経営学演習」は必須科目であり、ディプロマポリシー3が損なわれることはない。</p> <p>なお、カリキュラムポリシー1で使用されている「高度専門知識」は、特定分野に特化した知識を指すのではない。医療制度や病院の運営に必要な不可欠な医薬品・医療材料管理、医療安全、感染対策にとどまらず、病院経営を担う者としてのリーダーシップ、</p>
---	--

<p>を行い、双方向コミュニケーションを中心とした講義を行う。いずれの講義も準備学習の状況およびクラスでの発表等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等より総合的に評価を行う。</p> <p>(2) カリキュラム・ポリシー 2</p> <p>カリキュラム・ポリシー 2 に基づき、「病院経営学」において我が国固有の専門知識である「診療報酬・施設基準・関連法規」で、制度や関連法規の基礎的知識に基づいた医業収益確保の病院経営戦略に関する基本的能力について学ぶとともに、選択科目において診療報酬制度や医療機能が異なる病院固有の専門知識である「DPC・診療情報分析論」で診療情報管理に関する基礎的知識に基づき、医業収益を高めるための分析手法や診療情報管理体制等の考え方を通じて、病院経営で活用できる能力について学ぶ。「病院管理学」においては、「医薬品・医療材料管理」で医薬品・医療材料管理に関わる基礎的知識および関連法ならびに組織体制等のマネジメント方法を学び、「病院設計・施設設備」で、病院建築計画の基礎的知識である病院施設の全体計画、病棟計画、病室計画、外来計画、管理部門計画、供給部門計画等に加え建築マネジメントや、病院施設に求められる物理的環境要件や関連する空気調和設備、給排水衛生設備等、省エネルギー手法等について学ぶ。選択科目においては、国際認証を目指す病院固有の専門知識である「医療機能評価・JCI」で国内および国外の代表的な認証機関の認証基準および認証取得とその後の更新を見据えた国際標準の医療の質向上に向けた実践的な病院管理手法について学ぶ。「医療政策学」では、我が国固有の医療制度や関連政策に関する「医療制度概論（医療法）・保険医療制度」でわが国の保険医療制度の経緯を体系的に理解し、国際比較を通じた将来の医療の在り方を学ぶとともに、「医療産業論」で将来的に期待される先進的医療技術の開発および産学連携について、「地域医療・医療マーケティング」で地域の人口動態および疾患別の将来医療需要推計に基づく地域医療連携やマーケティングの専門知識を学ぶことによって、ディプロマ・ポリシー 2 を達成できるようカリキュラムが組まれている。カリキュラム・ポリシー 1 およびカリキュラムポリシー 2 で行う授業科目は、病院経営学・病院管理学・医療政策学がそれぞれ関連する。そのため本専門職課程では、体系的に学ぶカリキュラム構成とし、すべての授業科目は、準備学習を踏まえたクラスでの発表等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等か</p>	<p>病院のガバナンス、経営戦略、財務会計・経営分析、医療情報・電子カルテ、病院設計・施設設備、国際認証や医療機能評価、人事労務管理、産学連携、医療マーケティング等の保健衛生学分野の知識を、病院経営学・病院管理学・医療政策学と関連づけて体系的に学ぶ。そして理論から実践への橋渡しとなる「病院経営学演習」で、実際に起きた事例を教材とした学生同士のグループ討議等の意思決定訓練を相当量繰り返して行う演習方式により、分析力や洞察力、論理的思考力等の病院経営に携わる専門人材に必要な実践能力について教育する。</p> <p>「1、(3) 人材養成の目標」でも既述したように、藤田医科大学において、専門職大学院教員の採用に当たっては病院経営の実践およびそれらに関する研究・教育に従事する人材を積極的に採用している。本修士課程で教育を行う教員20人中、11人は医師免許を所有しており、その内8人は実務経験を有する。それらに該当しない教員においても、社会医学分野および臨床研究分野の研究指導、論文審査、臨床研究審査を通じて日常的に医学・臨床に密接に関わっている。このように、本カリキュラムポリシーのもと実施される高度専門教育には、実務経験と学術研究に裏打ちされた病院経営学・管理学の教育者として実績を有する人材が充てられている。これら教員が本修士課程で教育を担うことで、健全な病院経営のための課題発見および分析能力ならびに実践能力を有する高度の専門職人材の育成が可能となる。</p>
--	--

<p>ら総合的に評価を行う。</p> <p><u>(3) カリキュラム・ポリシー3</u></p> <p><u>カリキュラム・ポリシー3はディプロマ・ポリシー3に対応している。</u></p> <p><u>カリキュラム・ポリシー3は、カリキュラム・ポリシー1およびカリキュラム・ポリシー2で修得する理論から実践への橋渡しとなる「病院経営学演習」により、豊富な実務経験を有する実務家教員の講師陣によるワークショップ形式にて教育を行う。「病院経営の実際・病院再編統合」では病院経営の現場で生じる様々な課題解決に必要な実践的能力を修得する。「多視点から考える総合経営」では、人や組織に関する実際に生じた具体的な事例を基に、病院経営の現場で生じる多職種の理解と管理に関する実践能力を修得する。「病院経営学演習」の授業科目は、準備学習において、講師があらかじめ用意した病院経営の現場で生じた課題を熟読した回答の準備状況と、クラスでの発言等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等より総合評価を行う。なお、「病院経営学演習」は必須科目であり、ディプロマ・ポリシー3が損なわれることはない。</u></p> <p><u>さらに「病院経営学・管理学課題研究」を通じて、病院経営に関する学生自身の研究テーマについて、病院経営分析と経営戦略の策定および各戦略における解決方法に関する研究を見出し、財務諸表やヒアリング等による定性的情報、地域分析に関する資料等を自ら収集して行う科目を配置する。これらにより、病院経営学・管理学課題研究による少人数教育の利点を活かした教員による個別指導や他の学生とのディスカッションを重ねることで研究課題を深掘りし、病院経営戦略を自院の職員に説明できるコミュニケーション能力・リーダーシップ能力を修得する。研究課題の評価は、「病院経営学・病院管理学課題研究中間報告会」および「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告会」を通じ、成果発表プレゼンテーション（50%）と病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告書（50%）により評価を行う。</u></p> <p><u>これらのカリキュラム・ポリシーを達成するため、「1、(3) 人材養成の目標」でも既述したように、藤田医科大学において、専門職大学院教員の採用に当たっては病院経営の実践およびそれらに関する研究・教育に従事する人材を積極的に採用している。本専門職課程で教育を行う教員20人中、11人は医師免許を所有しており、その内8人は実務経験を有する。それらに該当しない教員においても、社会医学</u></p>	
--	--

分野および臨床研究分野の研究指導、論文審査、臨床研究審査を通じて日常的に医学・臨床に密接に関わっている。このように、本カリキュラム・ポリシーのもと実施される高度専門教育には、実務経験と学術研究に裏打ちされた病院経営学・管理学の教育者として実績を有する人材が充てられている。これら教員が本修士課程で教育を担うことで、健全な病院経営のための課題発見および分析能力ならびに実践能力を有する高度の専門職人材の育成が可能となる。

【別添】ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー・授業科目とアドミッション・ポリシーの関係

(2) 教育課程の特色

本専門職学位課程の教育課程は、全国における病院長または副院長などの医療機関責任者及びその職に就こうとする者、または管理運営において中心的職位にある者に対し、社会人学生として、病院経営に関する基本的能力と、健全な病院経営のための実践能力を修得させ、本専門職課程を通して病院管理者や病院経営幹部職員として一步を踏み出すことができる課程を目指し、以下のように構成する。

科目区分としては病院経営の基本的能力について教育する「病院経営学」、病院の人的資源管理や医薬品・医療材料管理、医療安全管理等の病院を運営する資源や組織の管理運営について教育する「病院管理学」、病院経営を取り巻く関連制度および政策について教育する「医療政策学」と、実際の病院経営で生じる事例を基にした経営分析および討論を通じて実践的病院経営を教育する「病院経営学演習」によって構成する。

「病院経営学」「病院管理学」「医療政策学」は基礎理論とその具体的事例について教育することから講義形式にて行う。「病院経営学」中の「病院経営戦略論」および「病院経営学演習」中の「病院経営の実際・病院再編統合」「実践的に考える組織・人材マネジメント」「多視点から考える総合経営」は、経営系専門職大学院で用いられている教育手法を病院経営学に応用し、病院のある状況下で実際に起こった具体的な出来事を取り扱う「病院経営のケース」に基づき、教員が議論をリードし学生同士が対話を進めながら進行する手法（ケースメソッド方式）を用いて行う。

これらの授業科目の評価は、準備学習における課題提出状況および授業における発表等の学習態度と討論への貢献度、取組姿勢等により総合的に評価を行う。また、応用科目の「病院経営学・管理学課題

(2) 教育課程の特色

本専門職学位課程の教育課程は、「病院長や病院幹部職を担う学生に病院経営に関する高度専門知識の基盤と、健全な病院経営のための実践能力を修得させ、修士課程を通して病院経営者として一步を踏み出すことができる課程」を目指し、以下のように構成する。

科目区分としては病院経営の基礎的要素について教育する「病院経営学」、病院の人的資源管理や医薬品・医療材料管理、医療安全管理について教育する「病院管理学」、病院経営を取り巻く関連制度および政策について教育する「医療政策学」と、実際の病院経営で生じる事例を基にした経営分析および討論を通じて実践的病院経営を教育する「病院経営学演習」によって構成する。

「病院経営学」「病院管理学」「医療政策学」は基礎理論とその実践について教育することから講義形式にて行う。「病院経営学」中の「病院経営戦略論」および「病院経営学演習」中の「病院経営の実際・病院再編統合」「実践的に考える組織・人材マネジメント」「多視点から考える総合経営」は、実際の病院のある状況下で実際に起こった具体的な出来事を取り扱う「病院経営のケース」に基づき、教員が議論をリードし学生同士が対話を進めながら進行する手法（ケースメソッド方式）を用いて行う。また、応用科目の「病院経営学・管理学課題研究」は自院の資料を用いてこれまでの授業を統合した課題を用意し、学生による成果発表を順次行い、他の学生・教員とのディスカッションを重ねることで、自院の職員や経営幹部職員に説明できるプレゼンテーション能力を育成する演習形式にて行う。

<p>研究」は自院の資料を用いてこれまでの授業を統合した課題を用意し、学生による成果発表を順次行い、他の学生・教員とのディスカッションを重ねることで、自院の職員や経営幹部職員に説明できるプレゼンテーション能力を育成する演習形式にて行う。<u>研究課題の評価は、「病院経営学・病院管理学課題研究中間報告書」および「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告会」を通じ、病院経営学・病院管理学課題研究中間報告書（50%）と成果発表プレゼンテーション（50%）により評価を行う。</u></p>	
---	--

(改善事項) 医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P)

2. <設置の趣旨・目的等>
 カリキュラム・ポリシーに学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

対応方針・概要

当初は学修成果の評価の在り方は、シラバスにより評価方法を明記する予定であったが、審査意見を踏まえ、より教育効果の高い授業科目を実施するため、より具体的な評価の在り方を再検討し、カリキュラム・ポリシー1、カリキュラム・ポリシー2、カリキュラム・ポリシー3にそれぞれ評価の在り方を明記することとした。具体的には、カリキュラム・ポリシー1およびカリキュラム・ポリシー2については「準備学習の状況およびクラスでの発表等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等より総合的に評価を行う」とし、カリキュラム・ポリシー3については、「病院経営学演習」の授業科目は、「準備学習において、講師があらかじめ用意した病院経営の現場で生じた課題を熟読した回答の準備状況と、クラスでの発言等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等より総合評価を行う。」とした。

また、カリキュラム・ポリシーの再検討に伴い、5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件の(2)履修指導、研究指導の方法に、本専攻の修了要件となる審査基準および修了認定等を明確にし、その指導方法について適切に改めた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (9 ページ～11 ページ)

新	旧
<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (1)教育課程の編成と考え方 【医学研究科 専門職学位課程カリキュラム・ポリシー】 医学研究科専門職学位課程では、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p><u>1. 病院経営に求められる高度専門的な知識を獲得し、その基本的能力を養うため、「病院経営学」・「病院管理学」・「医療政策学」の3つの領域を基軸とした教育を行う。</u></p> <p><u>2. 病院経営の実践において固有の専門知識を要するテーマについて学修し、我が国の医療制度の下で国際標準レベルの医療を実現させるため、幅広い分野の知見を統合した問題解決能力を身につけるための教育を行う。</u></p> <p><u>3. 実際に生じた医療現場の課題に関する事例を用いて学生が相互にかつ自発的に討論を反復して訓練することで、病院経営における課題解決を経験し自らのものとする訓練を行う教育手法により、経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術を修得するための教育を行う。</u></p> <p>(1) カリキュラム・ポリシー1</p>	<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (1) 教育課程の編成と考え方 【医学研究科 専門職学位課程カリキュラム・ポリシー】 医学研究科専門職学位課程では、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。</p> <p>1. 病院経営学・病院管理学・医療政策学に関する科目を通じて、高度専門的な知識を獲得し、複眼的視点による効果を目指す</p> <p>2. 病院経営学演習による個別指導・グループ討議を通じて、病院経営において自ら課題を発見できる能力、意思決定能力、課題解決のためのコミュニケーション能力を修得する</p> <p>3. 病院経営を実践する専門人材として、意思決定者・リーダーとしての役割を担い、地域社会や国際社会に関する深い理解と高い倫理感を持つ医療人の資質を磨く</p> <p>このうち、カリキュラム・ポリシー1および2は各種講義および演習のあり方を説明するものであり、ディプロマ・ポリシー2に対応する。カリキュラム・ポリシー1は必須科目である講義および選択科目によって、ディプロマ・ポリシー1を反映し、学</p>

<p>カリキュラム・ポリシー1に基づき、米国およびカナダにおける病院経営学・管理学領域の大学院プログラム認定機関（CAHME）が例示するコア領域 <u>Communications & interpersonal effectiveness、Critical thinking, analysis & problem solving、Management & leadership、Professionalism & ethics</u> を基盤とする授業科目を、我が国の学問領域「病院経営学」、「病院管理学」にそれぞれ配置する。2年次には病院経営学演習を通じて病院経営の実際において組織を効果的に動かすために必要な人材マネジメント、多職種連携、病院組織の内発的動機付け、組織改革等の課題解決能力を修得することで、ディプロマ・ポリシー1に掲げる「病院経営学・管理学のコア領域「病院経営学」、「病院管理学」の高度専門知識の基本的理解」に到達する。</p> <p>カリキュラム・ポリシー1は必須科目として学生が全員参加する講義形式および演習形式によって、ディプロマ・ポリシー1を達成できるようカリキュラムが組まれている。必須科目は医療現場の第一線で活躍する社会人学生等の多様なニーズを持った学生が、時間や場所の制約を受けにくい教育研究環境で学修できるよう、一部の科目においてオンライン（同時かつ双方向性のあるリアルタイム配信）での講義を行い、双方向コミュニケーションを中心とした講義を行う。いずれの講義も準備学習の状況およびクラスでの発表等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等より総合的に評価を行う。</p>	<p>生の選択を尊重するカリキュラムが組まれている。すなわち、必須科目「病院経営学」、「病院経営学演習」、「病院管理学」、「医療政策学」では学生が全員参加する科目で構成され、選択科目「DPC・診療情報分析論」「医療機能評価・JCI」については2科目中より1科目を選択する。</p> <p>カリキュラム・ポリシー3はディプロマ・ポリシー3に対応している。「病院経営学」、「病院管理学」、「医療政策学」は原則として事前課題、講義、グループディスカッションで構成し、必要な知識を体系的に理解する。「病院経営学演習」は豊富な実務経験を有する実務家教員の講師陣によるワークショップ形式にて行う。「病院経営学演習」は必須科目であり、ディプロマ・ポリシー3が損なわれることはない。</p> <p>なお、カリキュラム・ポリシー1で使用されている「高度専門知識」は、特定分野に特化した知識を指すのではない。医療制度や病院の運営に必要な不可欠な医薬品・医療材料管理、医療安全、感染対策にとどまらず、病院経営を担う者としてのリーダーシップ、病院のガバナンス、経営戦略、財務会計・経営分析、医療情報・電子カルテ、病院設計・施設設備、国際認証や医療機能評価、人事労務管理、産学連携、医療マーケティング等の保健衛生学分野の知識を、病院経営学・病院管理学・医療政策学と関連づけて体系的に学ぶ。そして理論から実践への橋渡しとなる「病院経営学演習」で、実際に起きた事例を教材とした学生同士のグループ討議等の意思決定訓練を相当量繰り返して行う演習方式により、分析力や洞察力、論理的思考力等の病院経営に携わる専門人材に必要な実践能力について教育する。</p>
<p>(2) カリキュラム・ポリシー2</p> <p>カリキュラム・ポリシー2に基づき、「病院経営学」において我が国固有の専門知識である「診療報酬・施設基準・関連法規」で、制度や関連法規の基礎的知識に基づいた医療収益確保の病院経営戦略に関する基本的能力について学ぶとともに、選択科目において診療報酬制度や医療機能が異なる病院固有の専門知識である「DPC・診療情報分析論」で診療情報管理に関する基礎的知識に基づき、医療収益を高めるための分析手法や診療情報管理体制等の考え方を通じて、病院経営で活用できる能力について学ぶ。「病院管理学」においては、「医薬品・医療材料管理」で医薬品・医療材料管理に関わる基礎的知識および関連法ならびに組織体制等のマネジメント方法を学び、「病院設計・施設設備」で、病院建築計画の基礎的知識である病院施設の全体計画、病棟計画、病室計画、外来計画、管理部門計画、供給部門計画等に加え建築マネジメントや、病院施設に求められる物理的環境要件や関連する空気調</p>	<p>「1、(3) 人材養成の目標」でも既述したように、藤田医科大学において、専門職大学院教員の採用に当たっては病院経営の実践およびそれらに関する研究・教育に従事する人材を積極的に採用している。本修士課程で教育を行う教員20人中、11人は医師免許を所有しており、その内8人は実務経験を有する。それらに該当しない教員においても、社会医学分野および臨床研究分野の研究指導、論文審査、臨床研究審査を通じて日常的に医学・臨床に密接に関わっている。このように、本カリキュラム・ポリシーのもと実施される高度専門教育には、実務経験と学術研究に裏打ちされた病院経営学・管理学の教育者として実績を有する人材が充てられている。これら教員が本修士課程で教育を担うことで、健全な病院経営のための課題発見および分析能力ならびに実践能力を有する高度の専門職人材の育</p>

<p>和設備、給排水衛生設備等、省エネルギー手法等について学ぶ。選択科目においては、国際認証を目指す病院固有の専門知識である「医療機能評価・JCI」で国内および国外の代表的な認証機関の認証基準および認証取得とその後の更新を見据えた国際標準の医療の質向上に向けた実践的な病院管理手法について学ぶ。「医療政策学」では、我が国固有の医療制度や関連政策に関する「医療制度概論（医療法）・保険医療制度」でわが国の保険医療制度の経緯を体系的に理解し、国際比較を通じた将来の医療の在り方を学ぶとともに、「医療産業論」で将来的に期待される先進的医療技術の開発および産学連携について、「地域医療・医療マーケティング」で地域の人口動態および疾患別の将来医療需要推計に基づく地域医療連携やマーケティングの専門知識を学ぶことによって、ディプロマ・ポリシー2を達成できるようカリキュラムが組まれている。カリキュラム・ポリシー1およびカリキュラム・ポリシー2で行う授業科目は、病院経営学・病院管理学・医療政策学がそれぞれ関連する。そのため本専門職課程では、体系的に学ぶカリキュラム構成とし、すべての授業科目は、準備学習を踏まえたクラスでの発表等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等から総合的に評価を行う。</p> <p><u>(3) カリキュラム・ポリシー3</u> カリキュラム・ポリシー3はディプロマ・ポリシー3に対応している。 カリキュラム・ポリシー3は、カリキュラム・ポリシー1およびカリキュラム・ポリシー2で修得する理論から実践への橋渡しとなる「病院経営学演習」により、豊富な実務経験を有する実務家教員の講師陣によるワークショップ形式にて教育を行う。「病院経営の実際・病院再編統合」では病院経営の現場で生じる様々な課題解決に必要な実践的能力を修得する。「多視点から考える総合経営」では、人や組織に関する実際に生じた具体的な事例を基に、病院経営の現場で生じる多職種の理解と管理に関する実践能力を修得する。「病院経営学演習」の授業科目は、準備学習において、講師があらかじめ用意した病院経営の現場で生じた課題を熟読した回答の準備状況と、クラスでの発言等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等より総合評価を行う。なお、「病院経営学演習」は必須科目であり、ディプロマ・ポリシー3が損なわれることはない。 さらに「病院経営学・管理学課題研究」を通じて、</p>	<p>成が可能となる。</p>
--	-----------------

<p>病院経営に関する学生自身の研究テーマについて、病院経営分析と経営戦略の策定および各戦略における解決方法に関する研究を見出し、財務諸表やヒアリング等による定性的情報、地域分析に関する資料等を自ら収集して行う科目を配置する。これらにより、病院経営学・管理学課題研究による少人数教育の利点を活かした教員による個別指導や他の学生とのディスカッションを重ねることで研究課題を深掘りし、病院経営戦略を自院の職員に説明できるコミュニケーション能力・リーダーシップ能力を修得する。研究課題の評価は、「病院経営学・病院管理学課題研究中間報告会」および「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告会」を通じ、成果発表プレゼンテーション（50%）と課題成果物のドキュメンテーション（50%）により評価を行う。</p> <p>これらのカリキュラム・ポリシーを達成するため、「1、（3）人材養成の目標」でも既述したように、藤田医科大学において、専門職大学院教員の採用に当たっては病院経営の実践およびそれらに関する研究・教育に従事する人材を積極的に採用している。本専門職課程で教育を行う教員20人中、11人は医師免許を所有しており、その内8人は実務経験を有する。それらに該当しない教員においても、社会医学分野および臨床研究分野の研究指導、論文審査、臨床研究審査を通じて日常的に医学・臨床に密接に関わっている。このように、本カリキュラム・ポリシーのもと実施される高度専門教育には、実務経験と学術研究に裏打ちされた病院経営学・管理学の教育者として実績を有する人材が充てられている。これら教員が本修士課程で教育を担うことで、健全な病院経営のための課題発見および分析能力ならびに実践能力を有する高度の専門職人材の育成が可能となる。</p>	
---	--

3. <教育課程等>

審査意見1のとおり、養成する人材像とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの妥当性及び整合性が判然としないため、教育課程の妥当性も判断できないが、以下の点を明確に説明した上で、本学科の教育課程が、適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 審査意見1(1)のとおり、本専攻の示す「病院」が、急性期医療機関のような多くの診療科や機能、病床を持つ比較的大規模な病院を想定したものであるのか、クリニックのような機能や病床等が小規模な病院を想定したものであるのか又はその両方を想定したものが明らかではないが、本専攻は「病院経営学・管理学を修得後、自身の所属する地域社会の病院で経営手腕を発揮することを想定」していることを踏まえると、医療介護に関する学びや、医療介護連携、地域包括ケアシステムといった地域医療機関との連携に関する授業科目が不足しており、教育課程の妥当性に疑義がある。このことから、適切な教育課程が編成されていることを説明するか、必要に応じて適切に改めること。

(2) 本専攻は、病院長や副院長などの医療機関の責任者や管理運営において中心的職位にある者への教育を想定しているが、病院は、看護師や薬剤師、リハビリテーション職等の多くの医療従事者で成り立っており、医師以外のこれらの多くの医療従事者とともに働くためのコミュニケーション能力や、特に経営者についてはリーダーシップ力や人的管理能力も求められる。本専攻の出願資格の一つに「医師として10年以上の実務経験を有する者」を掲げており、学生は医師のみであると見受けられ、本専攻内の学生間で医師以外の医療従事者とともに学ぶことは想定されないことから、医師以外の他職種の医療従事者と連携する力や、病院経営者としての管理能力を効果的に身に付けるための演習や、医療機関における実習等が有用であると見受けられるが、シラバス等からはそのような教育課程となっているとは判断できない。このことから、適切な教育課程が編成されていることを説明するか、必要に応じて適切に改めること。

(3) 本専攻の修了者は「病院経営者として地域医療の課題解決にあたることを想定」しているが、例えば地域課題の分析や課題解決策を決定し遂行するために必要と考えられる、統計学や疫学についての授業内容が見受けられないことから、適切な教育課程が編成されていることを説明するか、必要に応じて適切に改めること。

(4) カリキュラム・ポリシー3に「高い倫理観を持つ医療人の資質」を掲げる一方で、本専攻で学ぶ対象として想定する病院長などは、治験の最終権限者でもあり、医療倫理のみならず研究倫理も求められるが、シラバス等からはそのような教育課程となっているとは判断できない。適切な教育課程が編成されていることを説明するか、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

対応方針・概要

(1) 審査意見1への対応に基づき、本専攻が養成するより具体的な人材像を再検討し、審査意見を踏まえ、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーならびにアドミッションポリシーの整合性を示す関係図(【別添】ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー・授業科目とアドミッション・ポリシーの関係)を作成する。

これらの3つのポリシーの妥当性と整合性を明確にしたうえで、審査意見を踏まえ、授業科目について再検討し、医療介護に関する学びや、医療介護連携、地域包括ケアシステムといった地域医療機関との連

携に関する基礎的な知識を修得するため、「医療制度概論（医療法）・保険医療制度」にて、医療介護に関する制度や、医療機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）の医療体制に関する地域医療構想、医療介護連携、地域包括ケアシステムに関する基本的知識と事例について教育を行う授業科目を設定した。「地域連携・医療マーケティング」の授業科目にて、地域別の人口動態や疾患別の医療需要の動向や将来推計等の公衆衛生学の科学的知見に基づき、医療介護の地域連携に関する実践方法について教育を行い、「医療情報・電子カルテ」では近年、住民に質の高い医療介護サービスを提供するため、患者の同意を得た上で、病院、診療所、薬局、訪問看護事業者、訪問介護事業者等の各関係機関において、その患者の医療介護情報を電子的に共有・閲覧できる仕組み地域医療情報連携ネットワークの活用が期待されていることから、地域医療情報連携ネットワークの理解および活用方法について教育する内容とした。

(2) 当初は、医師以外の他職種の医療従事者と連携する力や、病院経営者としての管理能力を効果的に身に付けるための演習について「病院経営学演習」領域の授業科目「実践的に考える組織・人材マネジメント」で教育を行うこととしていたが、審査意見を踏まえ、「他者の意見を聞く能力」、「自身の意見を明確に説明する技術」、「多職種の役割を理解し連携する実践力」を科目概要に明記し、医師以外の他職種の医療従事者と連携する力や、病院経営者としての管理能力を効果的に身に付けるための演習の妥当性を明らかにするとともに、到達目標に「現場で生じる課題に対して全体を俯瞰する視点で総合的な戦略を思考し、関係者と協調的に問題解決を遂行できる病院経営の実践力を身につける。」を定めることで、人材養成の目標との整合性を明確にした。

また、審査意見「医療機関における実習等の有用性」について、当初は「病院経営学・管理学課題研究」において希望する者による医療機関へのインタビュー調査等を想定していたが、学生全員を対象とした医療機関における実習を必須とした。フィールド実習は、病院経営の実際として、病院の施設設備、手術室管理、物流管理、看護師や薬剤師、リハビリテーション職等とのディスカッション等を現地にて実施することとした。この実習を通じて、学生が研究目的を達成するための具体的な研究計画を作成できるよう研究指導を行うこととした。かかるフィールド実習を通じた研究課題に取り組むことで、ディプロマポリシー3「病院経営の現場で生じる課題を発見し、多職種連携の中核を担うリーダーとして、課題解決のために組織を動かす遂行できる能力」を養成する。

(3) 当初、病院経営者として地域医療の課題解決にあたることを想定するため、「地域医療・医療マーケティング」において、公衆衛生学の科学的知見に基づいた地域医療の課題および解決方法の具体的な取り組みに関する授業科目を設定していたが、審査意見を踏まえ、統計学および疫学の基礎的な知識および地域別の人口動態や疾患別の医療需要の動向や将来推計等の公衆衛生学の科学的知見に基づき、地域の実情を統計・疫学の分析結果と医療マーケティングの両面から考察し、地域医療の課題を解決するための実践的方法について修得する授業科目を設定する。

(4) 当初、「医療の質管理・患者安全・臨床倫理」の授業科目において、「高い倫理観を持つ医療人の資質」を教育するために、医療の質に関する理解、リーダーシップ、多職種による組織体制、戦略、評価指標、データマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークを体系的に修得することとしていたが、審査意見を踏まえ、「医療の質管理・患者安全・倫理」を設定し、前述の教育内容に加えて、先進的な医療技術開発のための臨床研究の適正な推進に必要な「研究倫理ガバナンス」について、病院が組織的に取り組むための体制や病院経営者の役割に関する教育を行うこととした。研究倫理ガバナンスは、患者安全と密接に関連することから、関係法令・指針への理解を前提に、事例を提示した上で講義および事例に基づくディスカッション形式の授業を行うこととした。そのため、医療の質管理を6回、患者安全を4回、医療倫理・研究倫理を5回の構成に見直した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (6 ページ～11 ページ)

新	旧
(4) <u>ディプロマ・ポリシー</u> 本専門職学位課程を修了するに当たって、すべての修	

了生が修得すべき資質および能力に係る具体的到達目標を以下のディプロマ・ポリシーに定める。これらの能力を身につけ、学則に定める教育課程の所定単位を修得し、特定の課題についての研究成果に関する報告書（以下「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告書」とする。）を提出の上、「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告会」による審査試験に合格した者に、病院経営学・管理学修士（専門職）の学位を授与する。

【医学研究科 専門職学位課程ディプロマ・ポリシー】

医学研究科専門職学位課程では、1年6ヵ月在学し、所定の単位を修得し、病院経営学・病院管理学課題研究にて、以下の知識・技能・能力を修得したと認められる者に修士（専門職）の学位を授与する。

1. 病院経営学・管理学のコア領域「病院経営学」、「病院管理学」、「医療政策学」に関する専門知識・技能の基本的理解
2. 地域社会への理解と高い倫理感を持つ医療人として、経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術、多職種の役割を理解し連携する能力
3. 病院経営の現場で生じる課題を発見し、多職種連携の中核を担うリーダーとして、課題解決のために組織を動かし遂行できる能力

本専門職課程を修了した者が、病院経営・管理に関する高度の専門的知識や実務能力をもって、修了後、地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の病院経営・管理の実務に取り組み、地域を支えるリーダーとしてその手腕を発揮することは、医療人としての医学知識・臨床経験と、病院経営学・管理学の両輪から病院経営の実践的課題に取り組むことが可能となる。学位課程修了前は、ややもすれば自身の医学知識・臨床経験に偏りがちであり、医療と経営の両立が困難だった状況から、学位課程修了後は、地域社会に対する深い洞察と、国際標準の医療の質を見据えた健全な病院経営の実現のために、病院経営学・管理学に関する基本的能力と高度専門知識と課題発見能力を有し、地域の医療ニーズや将来需要に応じた病院経営戦略を多職種と連携して実践できる能力を身につけ、それを現場で発揮できる専門人材を養成していく。

（5）修了後の進路

病院経営学・管理学専攻専門職学位課程終了後に想定される進路の分野としては、病院における経営幹部としての実務を中核とし、医療経営・管理に関する研究、教育、行政に至るまで多岐にわたる。具体的には、公立、公的、民間を問わず病院における病院経営者または病院経営幹部、学術研究機関、国や地方自治体の行

【医学研究科 専門職学位課程ディプロマポリシー】

医学研究科専門職学位課程では、1年6ヵ月在学し、所定の単位を修得し、病院経営学・病院管理学課題研究にて、以下の知識・技能・能力を修得したと認められる者に修士（専門職）の学位を授与する。

1. 医学・保健衛生学に基づく病院経営学・病院管理学・医療政策学に関する専門知識・技能
2. 自ら病院経営に係る課題を発見し、課題解決策を意思決定し遂行できる能力
3. 地域社会に対する医学・保健衛生学に関する深い洞察と、世界を見渡す広い視野

（4）修了後の進路

病院経営学・管理学専攻専門職学位課程終了後に想定される進路の分野としては、病院における経営幹部としての実務を中核とし、医療経営・管理に関する研究、教育、行政に至るまで多岐にわたる。具体的には、公立、公的、民間を問わず病院における病院経営者または病院経営幹部、学術研究機関、国や

政機関、国内外における医療関連の団体組織および第三者機関などを想定している。

医学・保健衛生学分野における病院経営学・病院管理学研究の発展および将来において中心的な役割を担う専門職人材を養成することは、次代における社会からの要請に応えるために重要である。

2. 病院経営学・管理学専攻の特色

前述のとおり、本専門職学位課程では、全国における地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の病院経営・管理の実務に取り組み、地域を支えるリーダーとなることを志す者、地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の医療専門職業等に就いており、病院経営・管理に関する高度の専門的知識や実務能力の修得を志す者に対して病院経営学・管理学を教育し、社会において健全な病院経営を担う人材の育成を行う。

本専門職学位課程では、病院経営学・管理学の基本的能力を修得するための体系的な授業科目による基本的能力の修得し、経営系専門職大学院で積極的に活用されている講師と受講生または受講生同士による議論を反復して行う実践的なマネジメント手法を訓練する教育手法を通じて、病院経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術を修得する。また、病院経営に関する学生自身の研究テーマについて、病院経営分析と経営戦略の策定および各戦略における解決方法に関する病院経営学・管理学課題研究等、少人数教育の利点を活かした教員による個別指導や他の学生とのディスカッションを重ねることで、病院経営の現場で生じる課題を自ら発見し、課題解決のために組織を動かし遂行できる能力を養成する。このような教育を行う本専門職学位課程の担当教員の多くは実務経験豊富な教員であり、実務において指導的役割を果たしてきた。同時に多くの教員は博士号取得や学術論文発表も行っている。このように本専門職学位課程は、実務経験と体系的学問の双方を兼ね備えた教員が教育する体制を有する特色を持っている。

さらに、本専門職学位課程が、大学院医学研究科で教育を行い、医療経営学・管理学（専門職）の学位を授与することに大変意義がある。本専門職学位課程は病院経営に関する専門職に就くことを希望する者を養成する専門職大学院である。わが国には公衆衛生専門職大学院が全国において設置されており、行政機関・研究機関・国際組織や企業等で科学的根拠に基づいた施策を立案し活躍できる公衆衛生専門家を輩出しているが、地域の現場では、医療の提供主体である病院の経営に携わる専門職人材も同様に求められている。ま

地方自治体の行政機関、国内外における医療関連の団体組織および第三者機関などを想定している。

医学・保健衛生学分野における病院経営学・病院管理学研究の発展および将来において中心的な役割を担う専門職人材を養成することは、次代における社会からの要請に応えるために重要である。

2. 病院経営学・管理学専攻の特色

前述のとおり、本専門職学位課程では、全国における病院長または副院長などの医療機関責任者及びその職に就こうとする者、または管理運営において中心的職位にある者に対して病院経営学・管理学を教育し、社会において健全な病院経営を担う人材の育成を行う。

我が国の病院経営環境は複雑化しており、医療制度および関連政策において、地域の医療需要に応じた医療提供について適切に対応することが難しく、さらに診療報酬制度改定に伴う収益の低下や医療従事者の人件費は増加傾向にある。病院経営学・管理学を修得した医療機関責任者及びその職に就こうとする医師免許取得者が、修了後、自身の所属する地域社会においてその手腕を発揮することは、医師としての医学知識・臨床経験と、病院経営学・管理学の両輪から病院経営の実践的課題に取り組むことが可能となる。学位課程修了前は、ややもすれば自身の医学知識・臨床経験に偏りがちであり、医療と経営の両立が困難だった状況から、学位課程修了後は、病院経営に係る課題において、客観的分析と課題解決策の本質を理解し実践することが出来、病院経営者として適切な意思決定を行うことができる。

さらに、本専門職学位課程が、大学院医学研究科で教育を行い、学位を授与することに大変意義がある。本専門職学位課程は病院における経営専門職に就くことを希望する者を養成する専門職大学院である。わが国には公衆衛生専門職大学院が全国において設置されており、行政機関・研究機関・国際組織や企業等で科学的根拠に基づいた施策を立案し活躍できる公衆衛生専門家を輩出しているが、地域の現場では、医療の提供主体である病院の経営に携わる専門職人材も同様に求められている。また、医学研究科以外にも、医療機関や医療関連企業の経営を学ぶ意欲のある者に経営学を教育する「医療マネジメントコース」を開設している研究科が全国において見受けられるが、その多くは事務職員や民間企業の社会人が対象であるため、企業経営の関連領域として位置づけられ、求められる専門性が異なる。本専門職学位課程は、医学・保健衛生学の中でも、病院経営に関わる医師が医学および臨床経験を土台

た、医学研究科以外の研究科にも、医療機関や医療関連企業の経営を学ぶ意欲のある者に経営学を教育する「医療マネジメントコース」を開設している研究科が見受けられるが、その多くは事務職員や民間企業の社会人が対象であるため、企業経営の関連領域として位置づけられ、人材養成の目的が異なる。

本専門職学位課程は、医学・保健衛生学の中でも、病院経営に関わる医師が医学および臨床経験を土台とし、病院経営学・管理学に関する高度専門知識との基盤を固め、地域社会に対する医療に関する深い洞察と国際標準の医療の質に関する視野を持ち、健全な病院経営を実践するための課題発見能力および分析能力ならびに課題解決能力を習得する課程である。特に、実際に社会に貢献できる病院経営を主導できるレベルにまで教育するためには、体系的学問と実践的教育課程を前提とした専門職大学院レベルの教育が必要である。

本専門職学位課程は、病院経営学・管理学を修得後、自身の所属する病院で経営手腕を発揮することを想定している。本学位課程の特色である3つの領域に関する専門知識の理解と、既に病院の第一線で活躍している社会人を対象とした実践的教育手法を通じて、病院全体の活動を先導する多職種連携の中核を担うリーダーとしての医療人であり、病院経営を実践できる能力を兼ね備えた専門人材のプロフェッショナル集団を強固に形成することは、次代に向けて国民が安心して質の高い医療を受けられる医療提供体制の構築とともに、医療現場の様々な諸課題に対応していく優れた医療人材の需要に応えるための教育を行う。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成と考え方

【医学研究科 専門職学位課程カリキュラム・ポリシー】

医学研究科専門職学位課程では、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 病院経営に求められる高度専門的な知識を獲得し、その基本的能力を養うため、「病院経営学」・「病院管理学」・「医療政策学」の3つの領域を基軸とした教育を行う。

2. 病院経営の実践において固有の専門知識を要するテーマについて学修し、我が国の医療制度の下で国際標準レベルの医療を実現させるため、幅広い分野の知見を統合した問題解決能力を身につけるための教育を行う。

3. 実際に生じた医療現場の課題に関する事例を用いて学生が相互にかつ自発的に討論を反復して訓練することで、病院経営における課題解決を経験し自らのも

とし、健全な病院経営を実践するために必要な知識および技能を習得する課程である。このような経緯から、病院経営に特化する専門的および実践的な教育課程「病院経営学・管理学専攻（専門職大学院）」を、医学研究科に新設し、健全な病院経営を志す医師免許取得者を養成することが必要である。特に、実際に社会に貢献できる病院経営を主導できるレベルにまで教育するためには、体系的学問と実践的教育課程を前提とした専門職大学院レベルの教育が必要である。本学位課程の担当教員の多くは実務経験豊富な教員であり、実務において指導的役割を果たしてきた。同時に多くの教員は博士号取得や学術論文発表も行っている。このように本専門職学位課程は、実務経験と体系的学問の双方を兼ね備えた教員が教育する体制を有する特色を持っている。

本専門職学位課程は、病院経営学・管理学を修得後、自身の所属する地域社会の病院で経営手腕を発揮することを想定している。我が国の医学・保健衛生において、病院全体の活動を先導し、経営の中心的な役割を担う医療職の専門人材を養成し、プロフェッショナル集団を強固に形成することは、将来の医療需要を見据えた新時代に求められる医療人材需要に応えるために、極めて重要である。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成と考え方

【医学研究科 専門職学位課程カリキュラムポリシー】

医学研究科専門職学位課程では、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 病院経営学・病院管理学・医療政策学に関する科目を通じて、高度専門的な知識を獲得し、複眼的視点による効果を目指す

2. 病院経営学演習による個別指導・グループ討議を通じて、病院経営において自ら課題を発見できる能力、意思決定能力、課題解決のためのコミュニケーション能力を修得する

3. 病院経営を実践する専門人材として、意思決定者・リーダーとしての役割を担い、地域社会や国際社会に関する深い理解と高い倫理感を持つ医療人の資質を磨く

のとする訓練を行う教育手法により、経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術を修得するための教育を行う。

(1) カリキュラム・ポリシー 1

・カリキュラム・ポリシー 1 に基づき、米国およびカナダにおける病院経営学・管理学領域の大学院プログラム認定機関 (CAHME) が例示するコア領域 Communications & interpersonal effectiveness、Critical thinking, analysis & problem solving、Management & leadership、Professionalism & ethics を基盤とする授業科目を、我が国の学問領域「病院経営学」、「病院管理学」にそれぞれ配置する。2 年次には病院経営学演習を通じて病院経営の実際において組織を効果的に動かすために必要な人材マネジメント、多職種連携、病院組織の内発的動機付け、組織改革等の課題解決能力を修得することで、ディプロマ・ポリシー 1 に掲げる「病院経営学・管理学のコア領域「病院経営学」、「病院管理学」の高度専門知識の基本的理解」に到達する。

カリキュラム・ポリシー 1 は必須科目として学生が全員参加する講義形式および演習形式によって、ディプロマ・ポリシー 1 を達成できるようカリキュラムが組まれている。必須科目は医療現場の第一線で活躍する社会人学生等の多様なニーズを持った学生が、時間や場所の制約を受けにくい教育研究環境で学修できるよう、一部の科目においてオンライン（同時かつ双方向性のあるリアルタイム配信）での講義を行い、双方向コミュニケーションを中心とした講義を行う。いずれの講義も準備学習の状況およびクラスでの発表等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等より総合的に評価を行う。

(2) カリキュラム・ポリシー 2

カリキュラム・ポリシー 2 に基づき、「病院経営学」において我が国固有の専門知識である「診療報酬・施設基準・関連法規」で、制度や関連法規の基礎的知識に基づいた医業収益確保の病院経営戦略に関する基本的能力について学ぶとともに、選択科目において診療報酬制度や医療機能が異なる病院固有の専門知識である「DPC・診療情報分析論」で診療情報管理に関する基礎的知識に基づき、医業収益を高めるための分析手法や診療情報管理体制等の考え方を通じて、病院経営で活用できる能力について学ぶ。「病院管理学」においては、「医薬品・医療材料管理」で医薬品・医療材料管理に関わる基礎的知識および関連法ならびに組織体制等のマネジメント方法を学び、「病院設計・施設設備」で、病院建築計画の基礎的知識である病院施設の

このうち、カリキュラムポリシー 1 および 2 は各種講義および演習のあり方を説明するものであり、ディプロマポリシー 2 に対応する。カリキュラムポリシー 1 は必須科目である講義および選択科目によって、ディプロマポリシー 1 を反映し、学生の選択を尊重するカリキュラムが組まれている。すなわち、必須科目「病院経営学」、「病院経営学演習」、「病院管理学」、「医療政策学」では学生が全員参加する科目で構成され、選択科目「DPC・診療情報分析論」「医療機能評価・JCI」については 2 科目中より 1 科目を選択する。

カリキュラムポリシー 3 はディプロマポリシー 3 に対応している。「病院経営学」、「病院管理学」、「医療政策学」は原則として事前課題、講義、グループディスカッションで構成し、必要な知識を体系的に理解する。「病院経営学演習」は豊富な実務経験を有する実務家教員の講師陣によるワークショップ形式にて行う。「病院経営学演習」は必須科目であり、ディプロマポリシー 3 が損なわれることはない。

なお、カリキュラムポリシー 1 で使用されている「高度専門知識」は、特定分野に特化した知識を指すのではない。医療制度や病院の運営に必要な不可欠な医薬品・医療材料管理、医療安全、感染対策にとどまらず、病院経営を担う者としてのリーダーシップ、病院のガバナンス、経営戦略、財務会計・経営分析、医療情報・電子カルテ、病院設計・施設設備、国際認証や医療機能評価、人事労務管理、産学連携、医療マーケティング等の保健衛生学分野の知識を、病院経営学・病院管理学・医療政策学と関連づけて体系的に学ぶ。そして理論から実践への橋渡しとなる「病院経営学演習」で、実際に起きた事例を教材とした学生同士のグループ討議等の意思決定訓練を相当量繰り返して行う演習方式により、分析力や洞察力、論理的思考力等の病院経営に携わる専門人材に必要な実践能力について教育する。

「1、(3) 人材養成の目標」でも既述したように、藤田医科大学において、専門職大学院教員の採用に当たっては病院経営の実践およびそれらに関する研究・教育に従事する人材を積極的に採用している。本修士課程で教育を行う教員 20 人中、11 人は医師免許を所有しており、その内 8 人は実務経験を有する。それらに該当しない教員においても、社会医学分野および臨床研究分野の研究指導、論文審査、臨床研

全体計画、病棟計画、病室計画、外来計画、管理部門計画、供給部門計画等に加え建築マネジメントや、病院施設に求められる物理的環境要件や関連する空調和設備、給排水衛生設備等、省エネルギー手法等について学ぶ。選択科目においては、国際認証を目指す病院固有の専門知識である「医療機能評価・JCI」で国内および国外の代表的な認証機関の認証基準および認証取得とその後の更新を見据えた国際標準の医療の質向上に向けた実践的な病院管理手法について学ぶ。「医療政策学」では、我が国固有の医療制度や関連政策に関する「医療制度概論（医療法）・保険医療制度」でわが国の保険医療制度の経緯を体系的に理解し、国際比較を通じた将来の医療の在り方を学ぶとともに、「医療産業論」で将来的に期待される先進的医療技術の開発および産学連携について、「地域医療・医療マーケティング」で地域の人口動態および疾患別の将来医療需要推計に基づく地域医療連携やマーケティングの専門知識を学ぶことによって、ディプロマ・ポリシー2を達成できるようカリキュラムが組まれている。カリキュラムポリシー1およびカリキュラム・ポリシー2で行う授業科目は、病院経営学・病院管理学・医療政策学がそれぞれ関連する。そのため本専門職課程では、体系的に学ぶカリキュラム構成とし、すべての授業科目は、準備学習を踏まえたクラスでの発表等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等から総合的に評価を行う。

(3) カリキュラム・ポリシー3

カリキュラム・ポリシー3はディプロマ・ポリシー3に対応している。

カリキュラム・ポリシー3は、カリキュラム・ポリシー1およびカリキュラム・ポリシー2で修得する理論から実践への橋渡しとなる「病院経営学演習」により、豊富な実務経験を有する実務家教員の講師陣によるワークショップ形式にて教育を行う。「病院経営の実際・病院再編統合」では病院経営の現場で生じる様々な課題解決に必要な実践的能力を修得する。「多視点から考える総合経営」では、人や組織に関する実際に生じた具体的な事例を基に、病院経営の現場で生じる多職種の理解と管理に関する実践能力を修得する。「病院経営学演習」の授業科目は、準備学習において、講師があらかじめ用意した病院経営の現場で生じた課題を熟読した回答の準備状況と、クラスでの発言等の学習態度とディスカッションへの貢献度、受講時の取組姿勢、討論内容等より総合評価を行う。なお、「病院経営学演習」は必須科目であり、ディプロマ・ポリシー3が損なわれることはない。

さらに「病院経営学・管理学課題研究」を通じて、病

院審査を通じて日常的に医学・臨床に密接に関わっている。このように、本カリキュラムポリシーのもと実施される高度専門教育には、実務経験と学術研究に裏打ちされた病院経営学・管理学の教育者として実績を有する人材が充てられている。これら教員が本修士課程で教育を担うことで、健全な病院経営のための課題発見および分析能力ならびに実践能力を有する高度の専門職人材の育成が可能となる。

<p>院経営に関する学生自身の研究テーマについて、病院経営分析と経営戦略の策定および各戦略における解決方法に関する研究を見出し、財務諸表やヒアリング等による定性的情報、地域分析に関する資料等を自ら収集して行う科目を配置する。これらにより、病院経営学・管理学課題研究による少人数教育の利点を活かした教員による個別指導や他の学生とのディスカッションを重ねることで研究課題を深掘りし、病院経営戦略を自院の職員に説明できるコミュニケーション能力・リーダーシップ能力を修得する。研究課題の評価は、「病院経営学・病院管理学課題研究中間報告会」および「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告会」を通じ、成果発表プレゼンテーション（50%）と病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告書（50%）により評価を行う。</p> <p>これらのカリキュラム・ポリシーを達成するため、「1、（3）人材養成の目標」でも既述したように、藤田医科大学において、専門職大学院教員の採用に当たっては病院経営の実践およびそれらに関する研究・教育に従事する人材を積極的に採用している。本専門職課程で教育を行う教員20人中、11人は医師免許を所有しており、その内8人は実務経験を有する。それらに該当しない教員においても、社会医学分野および臨床研究分野の研究指導、論文審査、臨床研究審査を通じて日常的に医学・臨床に密接に関わっている。このように、本カリキュラム・ポリシーのもと実施される高度専門教育には、実務経験と学術研究に裏打ちされた病院経営学・管理学の教育者として実績を有する人材が充てられている。これら教員が本修士課程で教育を担うことで、健全な病院経営のための課題発見および分析能力ならびに実践能力を有する高度の専門職人材の育成が可能となる。</p> <p>【別添】ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー・授業科目とアドミッション・ポリシーの関係</p>	
---	--

(新旧対照表)シラバス (授業計画)

新	旧
<p>医療制度概論(医療法)・保険医療制度 (科目概要)</p> <p>我が国の世界に類を見ない少子高齢化社会および人口減少社会によって、地域における医療提供体制の変化に伴う医療機関を取り巻く環境は、これまで以上に複雑化している。たとえば地域住民の高齢化に伴う医療ニーズの変化への対応、医療技術の進歩や ICT 技術の発展等による病院管理方法の変化、複雑化する診療報酬制度等に対応する財務基盤および経営体制、働き方改革を踏まえた医療人材の安定的確保、人口減少地域における医療機能・診療体制の確保、新興感染症等の感染拡大や災害に対応できる危機管理能力、諸外国の医療機関等に対して競争力のある国際基準の医療の質の向上等、これからの病院経営は大きな変化の局面にある。</p> <p>本講義では、病院経営や将来の方向性に影響を受けるわが国の保険医療・介護制度の経緯を体系的に理解し、それらの課題と今後の方向性について理解を深めることを目的とする。具体的には 1) 医療計画、2) 地域医療構想、3) 外来機能の明確化・連携、<u>4) 地域包括ケアシステム</u>を基軸として取り扱い、制度の理念、目的、評価指標、実施方法、現行制度の課題等の体系的理解を通じて、<u>医療介護制度と病院経営</u>の関係を論じることができる能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(到達目標)</p> <p>わが国の医療介護制度および<u>医療介護政策</u>の歴史的経緯および実態を理解する。 人口構成の将来推計等の社会経済状況を考慮して、病院機能の目指す方向を理解する。 国際比較を通じて、わが国における将来の医療について理解を深める。</p> <p>(講義内容) (1 回～10 回)</p> <p>わが国の保健医療制度および医療関連法規の基本体系を踏まえた、特に医師法、医療法、医療保険法、医事法を基軸とした地域医療を担う保険医療機関の役割や公的医療の財源等に関する法制度について体系的に制度を理解することを目的とした講義形式にて行う。</p> <p>また、<u>介護保険制度、地域包括ケアシステム、医療介護連携等</u>に関する諸政策の動向について理解することを目的とした講義を行う。</p>	<p>医療制度概論(医療法)・保険医療制度 (科目概要)</p> <p>我が国の世界に類を見ない少子高齢化社会および人口減少社会によって、地域における医療提供体制の変化に伴う医療機関を取り巻く環境は、これまで以上に複雑化している。たとえば地域住民の高齢化に伴う医療ニーズの変化への対応、医療技術の進歩や ICT 技術の発展等による病院管理方法の変化、複雑化する診療報酬制度等に対応する財務基盤および経営体制、働き方改革を踏まえた医療人材の安定的確保、人口減少地域における医療機能・診療体制の確保、新興感染症等の感染拡大や災害に対応できる危機管理能力、諸外国の医療機関等に対して競争力のある国際基準の医療の質の向上等、これからの病院経営は大きな変化の局面にある。</p> <p>本講義では、病院経営や将来の方向性に影響を受けるわが国の保険医療制度の経緯を体系的に理解し、それらの課題と今後の方向性について理解を深めることを目的とする。具体的には 1) 医療計画、2) 地域医療構想、3) 外来機能の明確化・連携を基軸として取り扱い、制度の理念、目的、評価指標、実施方法、現行制度の課題等の体系的理解を通じて、医療制度と病院経営の関係を論じることができる能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(到達目標)</p> <p>わが国の医療制度および医療政策の歴史的経緯および実態を理解する。 人口構成の将来推計等の社会経済状況を考慮して、病院機能の目指す方向を理解する。 国際比較を通じて、わが国における将来の医療について理解を深める。</p> <p>(講義内容) (1 回～10 回)</p> <p>わが国の保健医療制度および医療関連法規の基本体系を踏まえた、特に医師法、医療法、医療保険法、医事法を基軸とした地域医療を担う保険医療機関の役割や公的医療の財源等に関する法制度について体系的に制度を理解することを目的とした講義形式にて行う。</p> <p>また、医師の働き方改革、医療計画、地域医療構想、外来機能の明確化に関する諸政策の動向について理解することを目的とした講義に基づくディスカッションを行う。</p>

<p>(11回～12回)</p> <p>将来の人口構造の変化を見据えた地域医療体制に向けた地域医療構想に関する考え方を基軸に、地域医療構想に関する議論の経緯およびその取り組みや政策動向ならびに地域における病院経営の関係を体系的に理解することを目的とした講義形式にて行う。</p> <p><u>また、医師の働き方改革、医療計画、地域医療構想、外来機能の明確化に関する諸政策の動向について理解することを目的とした講義に基づくディスカッションを行う。</u></p> <p>(準備学習)</p> <p>事前準備は特にないが、昨今の医療介護制度や医療政策に関する状況を調べておくことが望ましい。</p> <p>地域医療・医療マーケティング (講義内容) (7回～8回)</p> <p>地域における高齢化の進展に伴う需要増に対応していくために、医療機関、都道府県・市町村、関係団体が一体となって地域の医療需要に応えることが求められている。</p> <p><u>本講義では人口動態調査、患者調査等の保健統計オープンデータを用いながら、地域医療の課題を分析するために必要な疫学・統計手法を講義し、公衆衛生学の専門的知見の観点から医療機関が担う地域（マーケット）である住民の健康状態に関する疾患別動向を概説する。また、保健統計オープンデータから分析した自院の地域での医療課題とその対応方策についてディスカッション形式にて理解を深める。</u></p> <p>(準備学習)</p> <p><u>担当教員より事前に送付する統計データに関する資料をあらかじめ理解しておくこと。</u></p> <p>医療情報・電子カルテ (科目概要)</p> <p>病院経営において、電子カルテをはじめとした病院情報管理システムの活用と経営課題は重要な関係にある。医療情報システムにより医療の質向上、病院運営における業務効率化、患者の利便性向上が期待されるいっぽうで、病院運営に合わせたカスタマイズの積み重ねによる職員負担増や業務非効率化や、過剰な投資による医業収益の圧迫等の経営課題に繋がるリスクも抱える。</p> <p><u>一方で、近年、地域医療において、住民に質の高い</u></p>	<p>(11回～12回)</p> <p>将来の人口構造の変化を見据えた地域医療体制に向けた地域医療構想に関する考え方を基軸に、地域医療構想に関する議論の経緯およびその取り組みや政策動向ならびに地域における病院経営の関係を体系的に理解することを目的とした講義形式にて行う。</p> <p>(準備学習)</p> <p>事前準備は特にないが、昨今の医療制度や医療政策に関する状況を調べておくことが望ましい。</p> <p>地域医療・医療マーケティング (講義内容) (7回～8回)</p> <p>地域における高齢化の進展に伴う需要増に対応していくために、医療機関、都道府県・市町村、関係団体が一体となって地域の医療需要に応えることが求められている。</p> <p>(準備学習)</p> <p>病院経営学に関する基本的な知識を習得していることが望ましい。</p> <p>医療情報・電子カルテ (科目概要)</p> <p>病院経営において、電子カルテをはじめとした病院情報管理システムの活用と経営課題は重要な関係にある。医療情報システムにより医療の質向上、病院運営における業務効率化、患者の利便性向上が期待されるいっぽうで、病院運営に合わせたカスタマイズの積み重ねによる職員負担増や業務非効率化や、過剰な投資による医業収益の圧迫等の経営課題に繋がるリスクも抱える。</p> <p>本講義では、病院情報管理システムに関する基礎的知</p>
---	---

<p><u>医療介護サービスを提供するため、患者の同意を得た上で、病院、診療所、薬局、訪問看護事業者、訪問介護事業者等の各関係機関において、その患者の医療介護情報を電子的に共有・閲覧できる仕組み地域医療情報連携ネットワークの活用が期待されている。</u></p> <p>本講義では、病院情報管理システムに関する基礎的知識および活用と課題の整理について講義形式による体系的に学ぶ。また、医療情報を取り扱う上で病院経営者が理解すべき情報管理の基本、医療情報における個人情報保護、情報セキュリティ、医療情報等に関する法制度について講義形式で学ぶ。</p> <p>後半では、これらの基礎的理解を踏まえた上で、自院における医療情報および病院情報管理システムに関する病院経営課題とその対応方策および<u>地域医療情報連携ネットワークによる地域医療体制の在り方</u>について、ディスカッション形式で修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(講義内容) (6回～8回)</p> <p><u>実際の病院における医療情報および病院情報管理システムに関する病院経営課題とその対応方策および地域医療情報連携ネットワークによる地域医療体制の在り方</u>について、講義およびディスカッション形式で理解を深める。</p> <p>実践的に考える組織・人材マネジメント (科目概要)</p> <p>2024年に施行する医師の働き方改革の影響等、健全な病院経営に人材マネジメントは必要不可欠な要素である。本科目における人材マネジメントとは、1)病院のビジョン・ミッション・戦略を実現するための人材活用の仕組みを整備すること、2)個人や組織に対する人の取組みのことを指す。</p> <p><u>病院組織は、医師以外の医療専門職および事務職等の多様な職種や人材とのチーム医療が求められるが、これはマネジメントにおいても同様である。病院経営を担う専門人材は、経営戦略を思考する能力に加え、他者の意見を聞く能力、自身の意見を明確に説明する技術、多職種の役割を理解し連携する実践力が求められる。</u></p> <p>本科目では、基礎科目「リーダーシップとガバナンス」「病院経営戦略論」を始めとしたこれまでの基礎科目で修得した知識や知見を踏まえ、病院経営の現場で生じる具体的な課題のうち、特に、人や組織に関して、モチベーション、離職マネジメント、人材採用、働き方改革等に関する実際に起こった具体的な出来事を取り</p>	<p>識および活用と課題の整理について講義形式による体系的に学ぶ。また、医療情報を取り扱う上で病院経営者が理解すべき情報管理の基本、医療情報における個人情報保護、情報セキュリティ、医療情報等に関する法制度について講義形式で学ぶ。</p> <p>後半では、これらの基礎的理解を踏まえた上で、自院における医療情報および病院情報管理システムに関する病院経営課題とその対応方策について、ディスカッション形式で修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(講義内容) (6回～8回)</p> <p><u>実際の病院における医療情報および病院情報管理システムに関する病院経営課題とその対応方策</u>について、ディスカッション形式で理解を深める。</p> <p>実践的に考える組織・人材マネジメント (科目概要)</p> <p>2024年に施行する医師の働き方改革の影響等、健全な病院経営に人材マネジメントは必要不可欠な要素である。本科目における人材マネジメントとは、1)病院のビジョン・ミッション・戦略を実現するための人材活用の仕組みを整備すること、2)個人や組織に対する人の取組みのことを指す。</p> <p>基礎科目「リーダーシップとガバナンス」「病院経営戦略論」を始めとしたこれまでの基礎科目で修得した知識や知見を踏まえ、病院経営の現場で生じる具体的な課題のうち、特に、人や組織に関して、モチベーション、離職マネジメント、人材採用、働き方改革等に関する実際に起こった具体的な出来事を取り扱う。教育手法としては欧米のビジネススクール等で実施されている「ケースメソッド方式」を採用し、講師と受講生または受講生同士による議論を反復して行い、実践的なマネジメント手法を訓練していく。なお、教材は具体的な事例に基づいた企業や病院のケースを用いる。(オムニバス方式／全15回)</p>
---	---

<p>扱う。教育手法としては欧米のビジネススクール等で実施されている「ケースメソッド方式」を採用し、講師と受講生または受講生同士による議論を反復して行い、実践的なマネジメント手法を訓練していく。なお、教材は具体的事例に基づいた企業や病院のケースを用いる。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院経営の現場で生じる人材マネジメントに関する課題解決に必要な実践能力を修得する。 ・ディスカッションへの積極的参加を通じて、「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得する。 ・現場で生じる課題に対して全体を俯瞰する視点で総合的な戦略を思考し、関係者と協調的に問題解決を遂行できる病院経営の実践力を身につける。 <p>病院経営学・管理学課題研究</p> <p>(科目概要)</p> <p>これまでの科目を総合し、学生が所属する医療機関の病院経営に関する学生自身の研究テーマを見出し、その研究過程ならびに結果に関して、後期においてその成果物を発表する。</p> <p><u>学生自身の研究テーマから研究課題を設定するために、医療機関にてフィールド実習を行い、病院経営の実際として、病院の施設設備、手術室管理、物流管理、看護師や薬剤師、リハビリテーション職等とのディスカッション等を現地にて実施する。</u>研究課題は、病院経営分析と経営戦略の策定および各戦略における解決方法に関する研究とし、財務諸表やヒアリング等による定性的情報、地域分析に関する資料等を自ら収集して行う。授業では学生による研究課題に関する発表を順次行い、他の学生・教員とのディスカッションを重ねることで経営課題を深掘りし、病院経営戦略を自院の職員に説明できるプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>研究課題の評価は、「病院経営学・病院管理学課題研究中間報告会」および「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告会」を通じ、研究課題に基づく成果発表内容により評価を行う。特に優れた報告については学術誌や関連学会発表等への投稿を指導する。(全60回)</p> <p>(授業計画)</p> <p>(1回～10回)</p> <p><u>医療機関にてフィールド実習を行い、病院経営の実際として、病院の施設設備、手術室管理、物流管理、看護師や薬剤師、リハビリテーション職等とのディスカッション等を現地にて実施する。</u></p>	<p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院経営の現場で生じる人材マネジメントに関する課題解決に必要な実践能力を修得する。 ・ディスカッションへの積極的参加を通じて、「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得し、病院経営の実践に活用できる能力を身につける。 <p>病院経営学・管理学課題研究</p> <p>(科目概要)</p> <p>これまでの科目を総合し、学生が所属する医療機関の病院経営に関する学生自身の研究テーマを見出し、その研究過程ならびに結果に関して、後期においてその成果物を発表する。</p> <p>研究課題は、病院経営分析と経営戦略の策定および各戦略における解決方法に関する研究とし、財務諸表やヒアリング等による定性的情報、地域分析に関する資料等を自ら収集して行う。授業では学生による研究課題に関する発表を順次行い、他の学生・教員とのディスカッションを重ねることで経営課題を深掘りし、病院経営戦略を自院の職員に説明できるプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>研究課題の評価は、「病院経営学・病院管理学課題研究中間報告会」および「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告会」を通じ、研究課題に基づく成果発表内容により評価を行う。特に優れた報告については学術誌や関連学会発表等への投稿を指導する。(全60回)</p> <p>(授業計画)</p> <p>(1回～10回)</p> <p>学生自身が興味を持つテーマおよび経営課題を自ら設定し、授業内で概要を発表する。教員および他の学生からのフィードバックを踏まえ、研究課題を決定する。</p>
---	---

フィールド実習を踏まえ、学生自身が関心を持つテーマおよび経営課題を自ら設定し、授業内で概要を発表する。教員および他の学生からのフィードバックを踏まえ、研究課題を決定する。

医療の質管理・患者安全・倫理

(科目概要)

患者中心の理念に基づく最高水準の医療を提供するために、病院経営者が医療の質管理について組織的戦略的に取り組むことは、病院経営にとって必要不可欠である。病院全体が質の高い医療を提供し続けるためには、医療の質に関する理解、リーダーシップ、多職種による組織体制、戦略的計画、評価指標、データマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークを体系的に修得する必要がある。加えて医療安全管理においては、近年の患者安全に関する動向、報告制度、医療事故調査等、修得すべき範囲は広範囲に及ぶ。さらに医療機関は、先進的な医療技術開発も求められ、臨床研究を適正に推進することも要請されている。

本科目では、近年における医療の現場で生じている安全管理に関する動向を理解し、必要性が高まりつつある先行的な改善を実践するために必要な知識・技術・態度を修得する。病院活動における医療安全および質改善体制とその機能に関する基礎的な知識を踏まえ、実際の事例を基にした患者安全質管理および研究倫理ガバナンスに関するシミュレーション等を用いた講義形式および演習形式を行う。(オムニバス方式/全15回)

(到達目標)

医療の質・患者安全・倫理に関する基礎理論およびフレームワークについての理解に基づき、病院が組織的に取り組むための体制や病院経営者の役割について実践することができる。

(講義内容)

(1回～6回)

医療の質管理、患者安全に関する考え方と基礎的理論を踏まえ、病院で質の高い医療を提供し続けるための、リーダーシップ、多職種による組織体制構築、戦略的計画、評価指標とデータマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークの習得を実例も交え、体系的に行う。

(7回～10回)

患者安全に関する世界的動向、分析手法、関連法制度、医療事故調査制度、医療安全管理者の役割等について、

医療の質管理・患者安全・臨床倫理

(科目概要)

患者中心の理念に基づく最高水準の医療を提供するために、病院経営者が医療の質管理について組織的戦略的に取り組むことは、病院経営にとって必要不可欠である。病院全体が品質の高い医療を提供し続けるためには、医療の質に関する理解、リーダーシップ、多職種による組織体制、戦略、評価指標、データマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークを体系的に修得する必要がある。加えて医療安全管理においては、近年の医療安全に関する動向、報告制度、ヒューマンエラーの仕組みと防止策等、修得すべき範囲は広範囲に及ぶ。

本科目では、近年における医療の現場で生じている安全管理に関する動向を理解し、具体的な実践に必要な知識と技術を修得する。本講義では、病院活動における組織体制とその機能に関する基礎的な知識を踏まえ、実際の事例を基にした医療安全および危機管理に関するシミュレーション等を用いて、講義形式および演習形式を通じて修得する。(オムニバス方式/全15回)

(到達目標)

医療の質に関する基礎理論およびフレームワークについての理解に基づき、

(講義内容)

(1回～13回)

医療の質管理に関する考え方と基礎的理論を踏まえ、病院の質の高い医療を提供し続けるための、リーダーシップ、多職種による組織体制、戦略、評価指標、データマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークを体系的に行う。

また、医療安全管理に関する理論および分析手法、コミュニケーション手法、法制度、組織体制、医療安全管理者の役割等について、実例を基にした講義形式およびディスカッション形式にて行う。

リハビリテーション医療領域の研究

<p>実例も交えディスカッション形式にて行う。</p> <p>(11回～13回)</p> <p><u>新規医療技術開発を行う医療機関が求められる研究倫理ガバナンスについて、関係法令・指針への理解を前提に、実例を提示した上で講義および事例に基づくディスカッション形式にて行う。研究不正の防止についても取り扱う。</u></p> <p>(14回～15回)</p> <p><u>医療機関、特に高度専門医療を提供する医療機関において、医療安全管理と密接な関連のある臨床倫理問題、研究倫理問題に関する事例を軸に、研究倫理支援部門と医療安全部門との連携、臨床倫理支援と医療安全部門との連携基盤の構築等、臨床から研究までの倫理問題に対応し意思決定できる組織システムの在り方およびその実践方法について、講義および事例に基づくディスカッション形式にて行う。</u></p> <p>(準備学習)</p> <p><u>病院経営学に関する基本的な知識を習得していることが望ましい。自院や任意の病院の医療の質管理・患者安全・倫理体制の取り組みや課題について調べておくこと</u></p> <p>(学則別表の対応)</p> <p><u>科目名称を「医療の質管理・患者安全・臨床倫理」から「医療の質管理・患者安全・倫理」に変更したことにより、学則別表を修正した。</u></p>	<p>(14回～15回)</p> <p>特に高度専門医療を提供する医療機関において、医療安全管理と密接な関連のある臨床倫理問題に関する事例を軸に、臨床倫理支援と医療安全部門との連携基盤等、臨床倫理問題に対応し意思決定できる組織システムの在り方およびその実践方法について、講義および事例に基づくディスカッション形式にて行う。</p> <p>(準備学習)</p> <p>病院経営学に関する基本的な知識を習得していることが望ましい。</p>
--	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (12 ページ～17 ページ)

新	旧
<p>1) 基礎専門科目</p> <p>医学知識及び研究遂行のための基礎について、1年次前期において教育する。</p> <p>①講義 (必修・5単位・選択・2単位)</p> <p>病院経営学領域より、専門性と十分な実務経験を有する教員が各分野について講義する。</p> <p><u>a. リーダーシップ・ガバナンス</u></p> <p>病院経営を担う病院長および経営幹部に最も重要な要素である病院経営者としてのリーダーシップと組織ガバナンスについての理論と実際について体系的に学習する。</p> <p>本科目は「リーダーシップと経営者としての心構え」である病院経営者が修得すべきリーダーシップと理論と、足利赤十字病院の経営において実践した経験に基づいた、経営者としての心構えについて講義形式とデ</p>	<p>1) 基礎専門科目</p> <p>医学知識及び研究遂行のための基礎について、1年次前期において教育する。</p> <p>①講義 (必修・5単位・選択・2単位)</p> <p>病院経営学領域より、専門性と十分な実務経験を有する教員が各分野について講義する。</p> <p><u>a. リーダーシップ・ガバナンス</u></p> <p>病院経営を担う病院長および経営幹部に最も重要な要素である病院経営者としてのリーダーシップと組織ガバナンスについての理論と実際について体系的に学習する。</p> <p>本科目は「リーダーシップと経営者としての心構え」である病院経営者が修得すべきリーダーシップと理論と、足利赤十字病院の経営において実践した経験に基づいた、経営者としての心構えについて講義形式と</p>

ディスカッション形式により体系的に学ぶ。また、「組織ガバナンスと人材マネジメント」として、組織論および人材マネジメントに関する理論を学び、医師や医師以外の他の医療職等の多くの職員が動いて初めて機能する労働集約型企业体である病院経営の現場で生じる職員のモチベーションや離職問題、組織コミュニケーション等、病院の経営者が直面する現場の課題解決のために必要な能力および考え方について修得する。

g. 地域医療・医療マーケティング

地域の住民がその地域でより良い医療を継続的に受けることができ、患者満足度を最大化するためには、自院が地域における位置づけを明確にし、患者や地域住民を起点に病院組織の戦略を考えるためのマーケティング戦略の理論が病院経営にとって必要不可欠である。

本講義では、わが国の病院経営と関連するマーケティングの基礎的理論に加え、デジタル化の動き、行動変容、ブランド戦略、患者経験等について学ぶ。また、地域における高齢化の進展に伴う需要増に対応していくために、医療機関、都道府県・市町村、関係団体が一体となって地域の医療需要に応えることが求められている。そのため公衆衛生学の専門的知見の観点から、統計データや疫学の科学的知見に基づき、医療機関が担う地域における住民の健康状態に関する疾患別動向を概説しつつ、地域医療についての考え方および取り組み事例について、講義形式およびディスカッション形式にて理解を深める。

②病院管理学（必修・7単位・講義）

a. 医療の質管理・患者安全・倫理

患者中心の理念に基づく最高水準の医療を提供するために、病院経営者が医療の質管理について組織的戦略的に取り組むことは、病院経営にとって必要不可欠である。病院全体が品質の高い医療を提供し続けるためには、医療の質に関する理解、リーダーシップ、多職種による組織体制、戦略、評価指標、データマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークを体系的に修得する必要がある。加えて医療安全管理においては、近年の医療安全に関する動向、報告制度、ヒューマンエラーの仕組みと防止策等、修得すべき範囲は広範囲に及ぶ。さらに医療機関は、先進的な医療技術開発も求められ、臨床研究を適正に推進することも要請されている。

本科目では、近年における医療の現場で生じている安全管理に関する動向を理解し、具体的な実践に必要な知識と技術を修得する。本講義では、病院活動にお

ディスカッション形式により体系的に学ぶ。また、「組織ガバナンスと人材マネジメント」として、組織論および人材マネジメントに関する理論を学び病院経営の現場で生じる職員のモチベーションや離職問題、組織コミュニケーション等、病院の経営者が直面する現場の課題解決のために必要な能力および考え方について修得する。

g. 地域医療・医療マーケティング

地域の住民がその地域でより良い医療を継続的に受けることができ、患者満足度を最大化するためには、自院が地域における位置づけを明確にし、患者や地域住民を起点に病院組織の戦略を考えるためのマーケティング戦略の理論が病院経営にとって必要不可欠である。

本講義では、わが国の病院経営と関連するマーケティングの基礎的理論に加え、デジタル化の動き、行動変容、ブランド戦略、患者経験等について学ぶ。また、地域における高齢化の進展に伴う需要増に対応していくために、医療機関、都道府県・市町村、関係団体が一体となって地域の医療需要に応えることが求められている。そのため公衆衛生学の専門的知見の観点から、医療機関が担う地域における住民の健康状態に関する疾患別動向を概説しつつ、地域医療についての考え方および取り組み事例について、講義形式およびディスカッション形式にて理解を深める。

②病院管理学（必修・7単位・講義）

a. 医療の質管理・患者安全・臨床倫理

患者中心の理念に基づく最高水準の医療を提供するために、病院経営者が医療の質管理について組織的戦略的に取り組むことは、病院経営にとって必要不可欠である。病院全体が品質の高い医療を提供し続けるためには、医療の質に関する理解、リーダーシップ、多職種による組織体制、戦略、評価指標、データマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークを体系的に修得する必要がある。加えて医療安全管理においては、近年の医療安全に関する動向、報告制度、ヒューマンエラーの仕組みと防止策等、修得すべき範囲は広範囲に及ぶ。

本科目では、近年における医療の現場で生じている安全管理に関する動向を理解し、具体的な実践に必要な知識と技術を修得する。本講義では、病院活動における組織体制とその機能に関する基礎的な知識を踏まえ、実際の事例を基にした医療安全および危機管理に

<p>ける組織体制とその機能に関する基礎的な知識を踏まえ、実際の事例を基にした医療安全および危機管理に関するシミュレーション等を用いて、講義形式および演習形式を通じて修得する。本科目を通じて、医療の質に関する諸課題に対応する課題解決能力を育成する。</p>	<p>関するシミュレーション等を用いて、講義形式および演習形式を通じて修得する。本科目を通じて、医療の質に関する諸課題に対応する課題解決能力を育成する。</p>
<p>b. 医療情報・電子カルテ</p>	<p>b. 医療情報・電子カルテ</p>
<p>病院経営において、電子カルテをはじめとした病院情報管理システムの活用と経営課題は重要な関係にある。医療情報システムにより医療の質向上、病院運営における業務効率化、患者の利便性向上が期待されるいっぽうで、病院運営に合わせたカスタマイズの積み重ねによる職員負担増や業務非効率化や、過剰な投資による医業収益の圧迫等の経営課題に繋がるリスクも抱える。</p>	<p>病院経営において、電子カルテをはじめとした病院情報管理システムの活用と経営課題は重要な関係にある。医療情報システムにより医療の質向上、病院運営における業務効率化、患者の利便性向上が期待されるいっぽうで、病院運営に合わせたカスタマイズの積み重ねによる職員負担増や業務非効率化や、過剰な投資による医業収益の圧迫等の経営課題に繋がるリスクも抱える。</p>
<p>本講義では、病院情報管理システムに関する基礎的知識および活用と課題の整理について講義形式による体系的に学ぶ。また、医療情報を取り扱う上で病院経営者が理解すべき情報管理の基本、医療情報における個人情報保護、情報セキュリティ、医療情報等に関する法制度について講義形式で学ぶ。後半では、これらの基礎的理解を踏まえた上で、自院における医療情報および病院情報管理システムに関する病院経営課題とその対応方策および地域医療情報連携ネットワークによる地域医療体制の在り方について、講義およびディスカッション形式で修得する。</p>	<p>本講義では、病院情報管理システムに関する基礎的知識および活用と課題の整理について講義形式による体系的に学ぶ。また、医療情報を取り扱う上で病院経営者が理解すべき情報管理の基本、医療情報における個人情報保護、情報セキュリティ、医療情報等に関する法制度について講義形式で学ぶ。後半では、これらの基礎的理解を踏まえた上で、自院における医療情報および病院情報管理システムに関する病院経営課題とその対応方策について、ディスカッション形式で修得する。</p>
<p>③医療政策学（必修・3単位・講義）</p>	<p>③医療政策学（必修・3単位・講義）</p>
<p>a. 医療制度概論（医療法）・保険医療制度</p>	<p>a. 医療制度概論（医療法）・保険医療制度</p>
<p>我が国の世界に類を見ない少子高齢社会および人口減少社会によって、地域における医療提供体制の変化に伴う医療機関を取り巻く環境は、これまで以上に複雑化している。たとえば地域住民の高齢化に伴う医療ニーズの変化への対応、医療技術の進歩やICT技術の発展等による病院管理方法の変化、複雑化する診療報酬制度等に対応する財務基盤および経営体制、働き方改革を踏まえた医療人材の安定的確保、人口減少地域における医療機能・診療体制の確保、新興感染症等の感染拡大や災害に対応できる危機管理能力、諸外国の医療機関等に対して競争力のある国際基準の医療の質の向上等、これからの病院経営は大きな変化の局面にある。</p>	<p>我が国の世界に類を見ない少子高齢社会および人口減少社会によって、地域における医療提供体制の変化に伴う医療機関を取り巻く環境は、これまで以上に複雑化している。たとえば地域住民の高齢化に伴う医療ニーズの変化への対応、医療技術の進歩やICT技術の発展等による病院管理方法の変化、複雑化する診療報酬制度等に対応する財務基盤および経営体制、働き方改革を踏まえた医療人材の安定的確保、人口減少地域における医療機能・診療体制の確保、新興感染症等の感染拡大や災害に対応できる危機管理能力、諸外国の医療機関等に対して競争力のある国際基準の医療の質の向上等、これからの病院経営は大きな変化の局面にある。</p>
<p>本講義では、病院経営や将来の方向性に影響を受けるわが国の保険医療介護制度の経緯を体系的に理解し、それらの課題と今後の方向性について理解を深めることを目的とする。具体的には1)医療計画、2)地域医療構想、3)外来機能の明確化・連携、4)地域包括ケ</p>	<p>本講義では、病院経営や将来の方向性に影響を受けるわが国の保険医療制度の経緯を体系的に理解し、それらの課題と今後の方向性について理解を深めることを目的とする。具体的には1)医療計画、2)地域医療構想、3)外来機能の明確化・連携を基軸として取り扱い、</p>

<p>アシテムを基軸として取り扱い、制度の理念、目的、評価指標、実施方法、現行制度の課題等の体系的理解を通じて、医療介護制度と病院経営の関係を論じることができる能力を身につける。また、OECD調査など公的機関のデータ、講師の豊富な海外経験・調査に基づき、①医療のレベル、②医療の身近さ、③投薬治療の状況、④医療の値段、⑤病院の環境、⑥高齢化対策の評価指標から欧米諸国と比較した日本の医療の現状を整理し、国際比較から見たわが国の今後の医療について体系的に理解することを目的とした講義を行う。これらにより、わが国の医療制度および医療政策の歴史的経緯および実態、人口構成の将来推計等の社会経済状況を考慮して、病院機能の目指す方向、国際比較を通じたわが国における将来の医療、それぞれについての理解を深める。</p>	<p>制度の理念、目的、評価指標、実施方法、現行制度の課題等の体系的理解を通じて、医療制度と病院経営の関係を論じることができる能力を身につける。また、OECD調査など公的機関のデータ、講師の豊富な海外経験・調査に基づき、①医療のレベル、②医療の身近さ、③投薬治療の状況、④医療の値段、⑤病院の環境、⑥高齢化対策の評価指標から欧米諸国と比較した日本の医療の現状を整理し、国際比較から見たわが国の今後の医療について体系的に理解することを目的とした講義を行う。これらにより、わが国の医療制度および医療政策の歴史的経緯および実態、人口構成の将来推計等の社会経済状況を考慮して、病院機能の目指す方向、国際比較を通じたわが国における将来の医療、それぞれについての理解を深める。</p>
---	--

(是正事項) 医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P)

4. <教育課程等>
 シラバスについて、例えば、授業科目の「医療の質管理・患者安全・臨床倫理」の到達目標の記載や講義内容の記載が途切れているなど、作成途中のものが見受けられる記載が散見されることから、シラバスについて網羅的に見直すとともに、必要に応じて適切な記載に改めること。

(対応)

対応方針・概要

審査意見4を踏まえ、シラバスを網羅的に見直し、適切な記載に変更した。

授業科目「医療の質管理・患者安全・倫理」の到達目標と講義内容の記載を適切に改めた。また、課題研究科目以外の講義13科目および演習3科目のシラバスにおいて、学生に対して遠隔授業か対面授業か分かりやすい記載として、「授業方法(ClassMethods)」欄に、それぞれ「遠隔授業」「対面授業」を記載した。これに伴い、担当教員のオフィスアワー欄について、「メール等で対応」等適切に変更した。

(新旧対照表)シラバス (授業計画)

新	旧				
<p>【シラバス】 p 21. 「医療の質管理・患者安全・倫理」</p> <p>【到達目標】 医療の質・患者安全・倫理に関する基礎理論およびフレームワークについての理解に基づき、<u>病院が組織的に取り組むための体制や病院経営者の役割について実践することができる。</u></p> <p>【講義内容】：安田あゆ子 医療の質管理、患者安全に関する考え方と基礎的理論を踏まえ、<u>病院で質の高い医療を提供し続けるための、リーダーシップ、多職種による組織体制構築、戦略的計画、評価指標とデータマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークの習得を実例も交え、体系的に行う。</u> <u>患者安全に関する世界的動向、分析手法、関連法制度、医療事故調査制度、医療安全管理者の役割等について、実例も交えディスカッション形式にて行う。</u> (削除)</p>	<p>【シラバス】 p 21. 「医療の質管理・患者安全・臨床倫理」</p> <p>【到達目標】 医療の質に関する基礎理論およびフレームワークについての理解に基づき、</p> <p>【講義内容】：安田あゆ子 医療の質管理に関する考え方と基礎的理論を踏まえ、<u>病院の質の高い医療を提供し続けるための、リーダーシップ、多職種による組織体制、戦略、評価指標、データマネジメント、改善の仕組み等の理論とフレームワークを体系的に行う。</u>また、医療安全管理に関する理論および分析手法、コミュニケーション手法、法制度、組織体制、医療安全管理者の役割等について、<u>実例を基にした講義形式およびディスカッション形式にて行う。</u></p> <p style="text-align: center;">リハビリテーション医療領域の研究</p>				
<p>【シラバス】 p 2. 「リーダーシップ・ガバナンス」 p 27. 「病院経営の実際・病院再編統合」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 2px;">授業方法 Class Methods</td> <td style="padding: 2px;">対面授業 大学2号館 12 階 1205 講義室</td> </tr> </table>	授業方法 Class Methods	対面授業 大学2号館 12 階 1205 講義室	<p>【シラバス】 p 2. 「リーダーシップ・ガバナンス」 p 27. 「病院経営の実際・病院再編統合」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 2px;">場所 Place</td> <td style="padding: 2px;">大学2号館 12 階 1205 講義室</td> </tr> </table>	場所 Place	大学2号館 12 階 1205 講義室
授業方法 Class Methods	対面授業 大学2号館 12 階 1205 講義室				
場所 Place	大学2号館 12 階 1205 講義室				

担当教員・ オフィス アワー Instructor/ Office Hour	教員名 Instructor	曜日 Date	時間 Hour	場所 Place	連絡先 Contact
	小松本 悟	講義担当日	講義終了後に対応	大学2号館 12階 1205講義室また はメール等で対 応	各教員メールアドレス
	渋谷 明隆	"	"		
	藤江里衣子	"	"		

【シラバス】

- p 4. 「病院経営戦略論」
- p 6. 「財務会計論・経営分析・コスト分析」
- p 8. 「診療報酬・施設基準・関連法規」
- p 10. 「DPC・診療情報分析論」
- p 12. 「医療情報・電子カルテ」
- p 14. 「医薬品・医療材料管理」
- p 16. 「病院設計・施設設備」
- p 18. 「医療機能評価・JCI」
- p 19. 「地域医療・医療マーケティング」
- p 21. 「医療の質管理・患者安全・倫理」
- p 23. 「医療制度概論（医療法）・保険医療制度」
- p 25. 「医療産業論」
- p 29. 「実践的に考える組織・人材マネジメント」
- p 31. 「多視点から考える総合経営」

授業方法 Class Methods	遠隔授業
-----------------------	------

担当教員・ オフィス アワー Instructor/ Office Hour	教員名 Instructor	曜日 Date	時間 Hour	場所 Place	連絡先 Contact
	渋谷 明隆	講義担当日	講義終了後に対応	メール等に対 応	各教員メールアドレス
	斐 英洙	"	"		
	飯塚 勝美	"	"		

担当教員・ オフィス アワー Instructor/ Office Hour	教員名 Instructor	曜日 Date	時間 Hour	場所 Place	連絡先 Contact
	小松本 悟	講義担当日	講義終了後に対応	大学2号館 12階 1205 講義室	各教員メールアドレス
	渋谷 明隆	"	"		
	藤江里衣子	"	"		

【シラバス】

- p 4. 「病院経営戦略論」
- p 6. 「財務会計論・経営分析・コスト分析」
- p 8. 「診療報酬・施設基準・関連法規」
- p 10. 「DPC・診療情報分析論」
- p 12. 「医療情報・電子カルテ」
- p 14. 「医薬品・医療材料管理」
- p 16. 「病院設計・施設設備」
- p 18. 「医療機能評価・JCI」
- p 20. 「地域医療・医療マーケティング」
- p 21. 「医療の質管理・患者安全・倫理」
- p 23. 「医療制度概論（医療法）・保険医療制度」
- p 25. 「医療産業論」
- p 29. 「実践的に考える組織・人材マネジメント」
- p 31. 「多視点から考える総合経営」

場所 Place	大学2号館 12階 1205 講義室
-------------	-----------------------

担当教員・ オフィス アワー Instructor/ Office Hour	教員名 Instructor	曜日 Date	時間 Hour	場所 Place	連絡先 Contact
	渋谷 明隆	講義担当日	講義終了後に対応	大学2号館 12階 1205 講義室	各教員メールアドレス
	斐 英洙	"	"		
	飯塚 勝美	"	"		

(改善事項) 医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P)

5. <教育課程等>
 シラバスについて、例えば、授業科目の「リーダーシップ・ガバナンス」や「病院経営戦略論」などの準備学習に「事前課題への準備が必要である」との記載があるが、学生が具体的にどのような準備をすればよいか理解できない記載となっている。このため、シラバスを網羅的に確認した上で、学生が当該授業科目を選択し履修するに当たって、事前にどのような準備学習が求められているのかが明確に分かるように具体的に示すこと。

(対応)

対応方針・概要

審査意見5を踏まえ、シラバスを網羅的に見直し、「リーダーシップ・ガバナンス」や「病院経営戦略論」「財務会計論・経営分析・コスト分析」、「地域医療・医療マーケティング」、「医療の質管理・患者安全・倫理」において、学生に必要な具体的な準備学習について明確に分かる記載に補正した。

(新旧対照表)シラバス (授業計画)

新	旧
<p>【シラバス】 p2. 「リーダーシップ・ガバナンス」 【準備学習】 <u>「リーダーシップと経営者としての心構え」については教科書「いまさら聞けない病院経営」第1章を事前に読み、自身の意見を整理しておくこと。</u> <u>「組織ガバナンス」については、講師が事前に配布する「病院経営のケース」を読み、与えられた設問に対する回答を用意しておくこと。</u></p> <p>p4. 「病院経営戦略論」 【準備学習】 <u>「経営戦略論」および「経営戦略的思考」については、講師が事前に配布する「病院経営のケース」を読み、与えられた設問に対する回答を用意しておくこと。</u></p> <p>p6. 「財務会計論・経営分析・コスト分析」 【準備学習】 <u>教科書「いまさら聞けない病院経営」第2章および第3章を事前に理解しておくこと。</u></p> <p>p.19 「地域医療・医療マーケティング」 【準備学習】 <u>担当教員より事前に送付する統計データに関する資料をあらかじめ理解しておくこと。</u></p> <p>p21. 「医療の質管理・患者安全・倫理」 【準備学習】 病院経営学に関する基本的な知識を習得していることが望ましい。<u>自院や任意の病院の医療の質管理・患者安全・倫理体制の取り組みや課題について調べておくこと。</u></p>	<p>【シラバス】 p2. 「リーダーシップ・ガバナンス」 【準備学習】 事前課題への準備が必要である。</p> <p>p4. 「病院経営戦略論」 【準備学習】 事前課題への準備が必要である。</p> <p>p6. 「財務会計論・経営分析・コスト分析」 【準備学習】 事前課題への準備が必要である。</p> <p>p.20 「地域医療・医療マーケティング」 【準備学習】 病院経営学に関する基本的な知識を習得していることが望ましい。</p> <p>p21. 「医療の質管理・患者安全・臨床倫理」 【準備学習】 病院経営学に関する基本的な知識を習得していることが望ましい。</p>

6. <教育課程等>

「設置の趣旨等を記載した書類」の中で、例えば、専門性と十分な実務経験を有する教員が基礎理論とその実践について講義する「基礎専門科目」のうち、「病院経営戦略論」は、経営戦略に関する基本理論等の知識及び事例検討を通じて『「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得し、病院経営の実践に活用できる能力を身につける』と説明されている。一方で、病院経営者としての知識・技能を修得させる「応用専門科目」のうち、「病院経営学演習」は、本演習を通じて、『「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得し、病院経営の実践に活用できる能力を身につける』と、同様の説明がなされており、「病院経営戦略論」が配置される「基礎専門科目」と「病院経営学演習」が配置される「応用専門科目」の差異が判然としない。また、シラバスについても同様の記載が見受けられることから、「基礎専門科目」と「応用専門科目」の教育課程上の位置づけや目指す到達目標の違い等について改めて明確に説明するとともに、学生が理解できるような記載となるように留意しつつ、必要に応じて申請書やシラバス等の関係箇所も適切に修正すること。

(対応)

対応方針・概要

当初は、基礎専門科目の「病院経営戦略論」および応用専門科目の「病院経営学演習」のいずれも「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得する授業科目であることを説明していたが、審査意見を踏まえ、それぞれの科目の教育目的の観点から、より比重を置いている技術や能力に関する教育効果を高めるため、基礎専門科目と応用専門科目を通じて修得する能力・技術を明確に説明するとともに、より具体的な教育課程を再検討し、基礎専門科目の「病院経営戦略論」では「経営戦略を思考する能力」、応用専門科目の「病院経営学演習」では「経営戦略を思考する能力」に加え「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を教育することとした。具体的には、「病院経営学演習」の授業科目「病院経営の実際・病院再編統合」、「実践的に考える組織・人材マネジメント」、「多視点から考える総合経営」の到達目標に、「現場で生じる課題に対して全体を俯瞰する視点で総合的な戦略を思考し、関係者と協調的に問題解決を遂行できる病院経営の実践力を身につける。」を追加する。

これらに伴い、「設置の趣旨等を記載した書類」およびシラバスを次のとおり変更する。

(新旧対照表)シラバス (授業計画)

新	旧
<p>【シラバス】 病院経営戦略論 (到達目標) 経営戦略に関する基本理論等の知識及び事例検討を用いた受講者同士との討議経験を通じて病院経営の基本的能力である「経営戦略を思考する能力」を修得する。また、健康経営に関する基礎的理解を身につけ、時代の要請に応える病院経営の在り方を修得する。</p> <p>(講義内容) 経営戦略的思考 病院経営の基本的枠組みである病院全体の活動の方向性を決定し、実践するための体制づくりである経営戦略の</p>	<p>【シラバス】 病院経営戦略論 (到達目標) 経営戦略に関する基本理論等の知識及び事例検討を用いた受講者同士との討議経験を通じて「経営戦略を思考する能力」を修得する。</p> <p>(講義内容) 病院経営の基本的枠組みである病院全体の活動の方向性を決定し、実践するための体制づくりである経営戦略の</p>

考え方について学ぶ。特に病院経営者に求められる「経営戦略的思考」を構成する医療経営に係る戦略目標および事業計画の作成、環境分析、セグメンテーション、ターゲットティング、ポジショニング、コミュニケーション等の理論、組織全体としての最適化を図るための組織体制、オペレーション戦略、経営戦略における計画・実行・評価それぞれの手法について学ぶ。

病院経営の実際・病院再編統合

(到達目標)

- ・病院経営の現場で生じる様々な課題解決に必要な実践的能力を修得する。
- ・ディスカッションへの積極的参加を通じて、「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得する。
- ・現場で生じる課題に対して全体を俯瞰する視点で総合的な戦略を思考し、関係者と協調的に問題解決を遂行できる病院経営の実践力を身につける。

実践的に考える組織・人材マネジメント

(科目概要)

2024年に施行する医師の働き方改革の影響等、健全な病院経営に人材マネジメントは必要不可欠な要素である。本科目における人材マネジメントとは、1)病院のビジョン・ミッション・戦略を実現するための人材活用の仕組みを整備すること、2)個人や組織に対する人の取組みのことを指す。

病院組織は、医師以外の医療専門職および事務職等の多様な職種や人材とのチーム医療が求められるが、これはマネジメントにおいても同様である。病院経営を担う専門人材は、経営戦略を思考する能力に加え、他者の意見を聞く能力、自身の意見を明確に説明する技術、多職種

の役割を理解し連携する実践力が求められる。本科目では、基礎科目「リーダーシップとガバナンス」「病院経営戦略論」を始めとしたこれまでの基礎科目で修得した知識や知見を踏まえ、病院経営の現場で生じる具体的課題のうち、特に、人や組織に関して、モチベーション、離職マネジメント、人材採用、働き方改革等に関する実際に起こった具体的な出来事を取り扱う。教育手法としては欧米のビジネススクール等で実施されている「ケースメソッド方式」を採用し、講師と受講生または受講生同士による議論を反復して行い、実践的なマネジメント手法を訓練していく。なお、教材は具体的事例に基づいた企業や病院のケースを用いる。(オムニバス方式/全15回)

(到達目標)

- ・病院経営の現場で生じる様々な課題解決に必要な実践

考え方について学ぶ。特に病院経営者に求められる「経営戦略的思考」を構成する医療経営に係る戦略目標および事業計画の作成、環境分析、セグメンテーション、ターゲットティング、ポジショニング、コミュニケーション等の理論、組織全体としての最適化を図るための組織体制、オペレーション戦略、経営戦略における計画・実行・評価それぞれの手法について学ぶ。

病院経営の実際・病院再編統合

(到達目標)

- ・病院経営の現場で生じる様々な課題解決に必要な実践的能力を修得する。
- ・ディスカッションへの積極的参加を通じて、「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得し、病院経営の実践に活用できる能力を身につける。

実践的に考える組織・人材マネジメント

(科目概要)

2024年に施行する医師の働き方改革の影響等、健全な病院経営に人材マネジメントは必要不可欠な要素である。本科目における人材マネジメントとは、1)病院のビジョン・ミッション・戦略を実現するための人材活用の仕組みを整備すること、2)個人や組織に対する人の取組みのことを指す。

本科目では、基礎科目「リーダーシップとガバナンス」「病院経営戦略論」を始めとしたこれまでの基礎科目で修得した知識や知見を踏まえ、病院経営の現場で生じる具体的課題のうち、特に、人や組織に関して、モチベーション、離職マネジメント、人材採用、働き方改革等に関する実際に起こった具体的な出来事を取り扱う。教育手法としては欧米のビジネススクール等で実施されている「ケースメソッド方式」を採用し、講師と受講生または受講生同士による議論を反復して行い、実践的なマネジメント手法を訓練していく。なお、教材は具体的事例に基づいた企業や病院のケースを用いる。(オムニバス方式/全15回)

(到達目標)

- ・病院経営の現場で生じる様々な課題解決に必要な実践

<p>的能力を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションへの積極的参加を通じて、「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得する。 ・現場で生じる課題に対して全体を俯瞰する視点で総合的な戦略を思考し、関係者と協調的に問題解決を遂行できる病院経営の実践力を身につける。 <p>多視点から考える総合経営 (到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院経営の現場で生じる様々な課題解決に必要な実践的能力を修得する。 ・ディスカッションへの積極的参加を通じて、「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得する。 ・現場で生じる課題に対して全体を俯瞰する視点で総合的な戦略を思考し、関係者と協調的に問題解決を遂行できる病院経営の実践力を身につける。 	<p>的能力を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションへの積極的参加を通じて、「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得し、病院経営の実践に活用できる能力を身につける。 <p>多視点から考える総合経営 (到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院経営の現場で生じる様々な課題解決に必要な実践的能力を修得する。 ・ディスカッションへの積極的参加を通じて、「経営戦略を思考する能力」「他者の意見を聞く技術」「自身の意見を明確に説明する技術」を修得し、病院経営の実践に活用できる能力を身につける。
--	--

(改善事項) 医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P)

7. <教育課程等>

履修指導、研究指導において、『7月下旬に課題レポートを提出し、8月中旬に「病院経営学・管理学課題研究成果物報告会」にて成果発表を行う』旨の説明があるが、課題レポートと課題研究成果物報告書の違いが判然とせず、また課題研究成果物報告書がどのようなものであるのか判然としない。課題研究成果物報告会は修了要件にも掲げられる課題研究の審査や最終試験の場となっていることから、課題研究成果物報告書について、課題レポートと課題研究成果物報告書の違いを含めて、改めて明確に説明すること。

(対応)

対応方針・概要

当初は2年次の7月下旬に課題レポートを提出し、8月中旬に「病院経営学・管理学課題研究成果物報告会」にて成果発表を実施する予定であったが、審査意見を踏まえ、課題研究成果物報告書がどのようなものであるのかについて明らかにするとともに、学生を学位授与へと導くプロセスを明確にするため、より具体的な実施体制を再検討し、課題研究成果物報告書とは、「病院経営学・管理学課題研究」にてフィールド実習の経験を踏まえ、研究指導教員の指導の下で作成した研究計画書に基づき実施した研究成果をとりまとめた報告書および資料等であることとし、課題研究成果物報告書に向けた研究指導方法を明確にした。

これらに伴い、「病院経営学・管理学課題研究成果物報告書」および「病院経営学・管理学課題研究成果物報告会」に関する実施スケジュールを明確に説明する。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類 (20ページ~22ページ)

新	旧
<p>5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件</p> <p>(2) 履修指導、研究指導の方法</p> <p>授業の履修と研究指導の終了まで、以下のとおり指導していく。なお、詳細なスケジュールは、添付資料5の通りである。(添付資料5)</p> <p>1) 出願時</p> <p>入学希望者は、出願時に課題研究テーマを特定しておく。</p> <p>2) 入学・ガイダンス後</p> <p>「履修科目届」の申請を行い、履修を開始する。</p> <p>3) <u>1年次7月中旬(病院経営学・管理学課題研究の決定)</u></p> <p>「指導教員届」の提出により病院経営学・管理学課題研究の最終決定を行う。</p> <p>学生は教員との面談を経て、志望する課題研究および、研究指導教員を決定する。</p> <p>研究指導教員は、学生と協議し副指導教員を決め、副指導教員と協力して学生への研究成果に向けた研究指導を開始する。</p> <p>4) <u>1年次の7月下旬(研究課題の開始・研究計画書の策定)</u></p> <p>研究指導教員の指導の下で、具体的な「研究計画書」を作成し、研究を開始する。</p>	<p>5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件</p> <p>(2) 履修指導、研究指導の方法</p> <p>授業の履修と研究指導の終了まで、以下のとおり指導していく。なお、詳細なスケジュールは、添付資料5の通りである。(添付資料5)</p> <p>1) 出願時</p> <p>入学希望者は、出願時に課題研究テーマを特定しておく。</p> <p>2) 入学・ガイダンス後</p> <p>「履修科目届」の申請を行い、履修を開始する。</p> <p>3) 病院経営学・管理学課題研究の決定(1年次7月中旬)</p> <p>「指導教員届」の提出により病院経営学・管理学課題研究の最終決定を行う。</p> <p>学生は教員との面談を経て、志望する課題研究および、研究指導教員を決定する。</p> <p>研究指導教員は、学生と協議し副指導教員を決め、副指導教員と協力して学生への研究成果に向けた研究指導を開始する。</p> <p>4) 1年次の7月下旬から、研究課題の開始</p> <p>研究指導教員の指導の下で、具体的な「研究計画書」を作成し、研究を開始する。</p> <p>研究指導教員は学生と協議し課題研究計画を決定する。</p>

<p>研究指導教員は学生と協議し課題研究計画を決定し、<u>学生の研究計画書の作成に当たり、必要な指導を実施する。</u>副指導教員は専門分野の視点から助言を行う。</p> <p>また、<u>課題研究においては医療機関への実習を必須とする。実習は地域の拠点となる病院や地域の医療を支える病院である総合病院で実施し、病院経営の実際の現場として、病院の施設設備、病棟部門、手術部門、物流管理部門、診療支援部門等での実習および病院経営管理部門のほか、看護師、薬剤師、リハビリテーション職等とのディスカッション等を現地にて実施する。</u></p> <p><u>実習を通じて、学生は研究計画書で設定した研究目的を達成するための具体的な方法を立案し、研究指導教員に報告する。研究計画の実施に当たっては、必要に応じ倫理的側面から本学研究倫理審査会の審査を受ける。</u></p> <p>5) 1年次の後期(研究の遂行)</p> <p><u>学生は、研究計画に従い研究を遂行する。研究の遂行にあたり、研究指導教員だけでなく、副指導教員および研究室内外のスタッフなどから助言を受け、指導教員と連携して指導を受ける。</u></p> <p><u>研究指導教員および副指導教員ならびに他の学生による検討の場において、学生は定期的に進捗状況の発表を行いおよび他の学生からのフィードバックを踏まえ、課題研究の改善を図り、研究を前進させる。</u></p> <p><u>1年次の3月に、学生のそれまでの研究成果の発表の場として、「病院経営学・管理学課題研究中間報告会」を研究科が主催し、教員は、発表内容に係る問題点等を指摘・助言する。また、指導教員は教員から指摘された問題点等の解決方法についての指導を行う。学生は、指摘・助言を受けて研究課題のさらなる改善を図り、研究成果のまとめへ向かう。</u></p> <p>6) 2年次</p> <p><u>2年次6月までに、学生は、「病院経営学・管理学課題研究中間報告会」での指摘事項を踏まえ、研究成果を「病院経営学・管理学課題研究成果物報告書」にまとめる。</u>研究指導教員は、学生の病院経営学・管理学課題研究成果物報告書作成について、全体構成、図や表の作成、参考文献や資料・データ等の整理等、病院経営学・管理学課題研究成果物報告書の完成までの指導を行う。</p> <p><u>2年次7月までに、「病院経営学・管理学課題研究成果物報告書」の審査を行う審査委員を決定する。審査委員は3名以上の教員とし、教授会の議を経て研究科長が指名する。</u></p> <p><u>2年次7月下旬に学生は「病院経営学・管理学課題研究成果物報告書」を所定の期日までに提出する。</u></p> <p><u>8月中旬に課題研究の成果発表の場として、「病院経営学・管理学課題研究成果物報告会」を開催する。学生は研究課題の成果発表をプレゼンテーション形式にて行う。</u></p>	<p>副指導教員は専門分野の視点から助言を行う。</p> <p>5) 1年次の後期</p> <p>研究における進捗状況の発表を行う。研究の遂行にあたり、研究指導教員だけでなく、副指導教員および研究室内外のスタッフなどから助言を受け、指導教員と連携して指導を受ける。</p> <p>3月に病院経営学・管理学課題研究中間報告会を研究科が主催し、教員および他の学生からのフィードバックを踏まえ、課題研究の改善を図る。</p> <p>6) 2年次</p> <p>7月下旬に課題レポートを提出し、8月中旬に「病院経営学・管理学課題研究成果物報告会」にて成果発表を行う。8月下旬の医学研究科委員会の審査を経て、可否が決定される。</p>
--	--

審査委員は、提出された「病院経営学・管理学課題研究成果物報告書」および「病院経営学・管理学課題研究成果物報告会」での発表内容を審査し、これらの結果を教授会に報告する。

＜審査の評価基準＞

「病院経営学・管理学課題研究成果物報告書」の審査基準は、設定した課題に関する背景情報や分析を踏まえた妥当性と、課題解決策について医療経営学・管理学で修得した基本的能力および多職種を理解した実践的な方法である等について審査を行う。

また、「病院経営学・管理学課題研究成果物報告会」の審査基準は、「病院経営学・管理学課題研究成果物報告書」について明確に説明できており、ディプロマ・ポリシーに示す能力を修得しているか等について、総合的に審査する。

8月下旬の医学研究科委員会にて、「病院経営学・管理学課題研究成果物報告書」および「病院経営学・管理学課題研究成果物報告会」の審査結果について合格又は不合格を議決する。この議決には、教授会の構成員の3分の2以上が出席し、その3分の2以上の同意を必要とする。学長は、教授会の判定結果に基づき、学生の本専攻課程の修了を認定し、専門職の学位授与を、学位記を交付して行う。合否が決定される。

(3) 履修モデル

藤田医科大学専門職学位課程では、修了後、将来、病院における経営幹部としての実務者や医療経営・管理に関する研究、教育、行政に携わる人材育成を目的としている。このため、カリキュラム・ポリシーに従い、以下のモデルで履修を行う。

学生は必修科目である各講義・演習を履修し、病院経営学・病院管理学における基礎知識を修得後、希望する研究課題を決める。個人指導を中心とした課題研究を通じて、学識と課題研究技能の実践的能力を学ぶ。「病院経営学・病院管理学課題研究中間報告会」および「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告会」を通じて課題研究の進捗・経過を発表し、討論・指導を行うことで、プレゼンテーション能力を養う。

(添付資料6)

(3) 履修モデル

藤田医科大学専門職学位課程では、修了後、将来、日本の医療機関での専門人材を担うことのできる人材育成を目的としている。このため、カリキュラム・ポリシーに従い、以下のモデルで履修を行う。

学生は必修科目である各講義・演習を履修し、病院経営学・病院管理学における基礎知識を修得後、希望する研究課題を決める。個人指導を中心とした課題研究を通じて、学識と課題研究技能の実践的能力を学ぶ。「病院経営学・病院管理学課題研究中間報告会」および「病院経営学・病院管理学課題研究成果物報告会」を通じて課題研究の進捗・経過を発表し、討論・指導を行うことで、プレゼンテーション能力を養う。

(添付資料6)

(是正事項) 医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P)

8. <入学者選抜>

本専攻は修業年限が1年6か月となっているが、当該期間の中で設定された課題研究を達成するためには、入学前から課題に対する十分な問題意識を持っていることや相応の解決方法が検討できていることが必要であると考えられる。このため、課題研究を含む教育課程における学びを修業年限期間中に修得することができる資質・能力を持った入学者を受け入れるに当たって、本専攻のアドミッション・ポリシーの妥当性を改めて明確に説明するとともに、当該アドミッション・ポリシーに照らして適切な入学者選抜となっていることを明確に説明すること。また、必要に応じて、アドミッション・ポリシーや入学者選抜等について適切に改めること。

(対応)

対応方針・概要

当初はアドミッション・ポリシーにより1. 課程を修了するための十分な医学知識および基礎学力を有している人、2. 疾病に苦しむ人の問題解決に向けて新しい病院の運営管理を推進する目的意識のある人、3. 病院において指導者として活躍する意欲のある人、4. 独創的な発想を有し、自立して研究課題に取り組む情熱のある人、5. 誠実で協調性に優れ、責任感と倫理性を有する人を入学者として受け入れる予定であったが、審査意見を踏まえ、課題研究を含む教育課程における学びを修業年限期間中に修得することができる資質・能力を持った入学者を受け入れるため、より具体的な入学者選抜の概要および選抜方法を再検討し、「実務経験を有していること(医療専門職としての能力)」、「業務を遂行できる人(優れた成果を創出できる行動特性)」、「自ら研究課題に取り組む目的意識のある人(実践する力)」と明確にすることとした。具体的には、アドミッション・ポリシーを4つに再編し、1. 課程を修了するための十分な医学知識および実務経験を有している人(医療専門職としての能力)、2. 病院において指導者として活躍する情熱のある人(リーダーシップ)、3. 誠実で協調性に優れ、責任感と倫理性を有し、業務を遂行できる人(優れた成果を創出できる行動特性)、4. 医療現場で生じる様々な問題の解決に向けて、自ら研究課題に取り組む目的意識のある人(実践する力)とする。

また、より多様な人材を募集するため、出願資格に、「地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の医療専門職業等に就いており、病院経営・管理に関する高度の専門的知識や実務能力の修得を志す者」を追加する。

これらに伴い、アドミッション・ポリシーおよび入学者の選抜方法について適切に改める。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(25ページ~26ページ)

新	旧
<p>9. 入学者選抜の概要 【医学研究科 専門職学位課程アドミッション・ポリシー】 医学研究科専門職学位課程では、以下のような人の入学を求めている。</p> <p>1. 課程を修了するための十分な医学知識および<u>実務経験を有している人(医療専門職としての能力)</u></p> <p>2. <u>病院において指導者として活躍する情熱のある人(リーダーシップ)</u></p> <p>3. <u>誠実で協調性に優れ、責任感と倫理性を有し、業務を遂行できる人(優れた成果を創出できる行動特性)</u></p> <p>4. <u>医療現場で生じる様々な問題の解決に向けて、自ら研究課題に取り組む目的意識のある人(実践する力)</u></p>	<p>9. 入学者選抜の概要 【医学研究科 専門職学位課程アドミッション・ポリシー】 医学研究科専門職学位課程では、以下のような人の入学を求めている。</p> <p>1. 課程を修了するための十分な医学知識および基礎学力を有している人</p> <p>2. 疾病に苦しむ人の問題解決に向けて新しい病院の運営管理を推進する目的意識のある人</p> <p>3. 病院において指導者として活躍する意欲のある人</p> <p>4. 独創的な発想を有し、自立して研究課題に取り組む情熱のある人</p> <p>5. 誠実で協調性に優れ、責任感と倫理性を有する人</p>

<p>(3) 出願資格 病院における病院経営者または病院経営幹部等の資質を有する多様な人材を募集するため、<u>医学部医学科卒業した人材に下記項目を加え、入学資格を付与する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師免許を有するもの 2) 10年以上の実務経験を有する者 3) <u>地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の病院経営・管理の実務に取り組み、地域を支えるリーダーとなることを志す者</u> 4) <u>地域において中核的な役割を担う病院や地域を支える病院の医療専門職業等に就いており、病院経営・管理に関する高度の専門的知識や実務能力の修得を志す者</u> 5) <u>個別の資格審査により同等以上の学力があると認められた者</u> <p>(4) 入学者の選抜方法 本専門職学位課程を恙無くこなしていくために必要な能力を有する者を選抜する方法として面接試験を実施する。 面接試験：アドミッション・ポリシー1～4に合致する人間であるかを判断する。 入学選抜は、8月、1月の年2回実施する（申請が認可された初年度入学者選抜は12月上旬と2月中旬に行う）。提出された出願書類の審査および面接を行い、可否を判定する。「出願書類」では、アドミッション・ポリシー1～4に合致する人間であるかを判断するため、履歴書・実務経験報告書に加え、目指す病院経営の姿、現状の経営課題、本専門職大学院で修得を目指す能力について記述する形式の項目を含む。また、所属する組織の長による入学後の学業を承諾する推薦状を合わせて提出することにより、面接試験の受験資格審査を行う。 面接では出願書類審査結果に沿って、「病院経営学」「病院管理学」「医療政策学」に必要な最低限の知識、貢献意欲、主体的行動意欲、発想力、協働力、構想力といった意欲や能力を具体的に示す経験について質問し、評価する。 最終的に書類審査と面接試験審査等を総合的に評価し、可否を判定する。</p>	<p>(3) 出願資格 病院経営者または病院経営幹部等の資質を有する多様な人材を募集するため、下記の項目をすべて満たす者または個別資格審査によりそれと同等と認められる者に、出願資格を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師免許を有する者 2) 医師として10年以上の実務経験を有する者 3) 地域において中核的な役割を担う病院での運営に関する管理職経験を有する者 4) 病院長または副院長に就いている者、病院長または副院長に就く予定または意欲のある者 <p>(4) 入学者の選抜方法 本専門職学位課程を恙無くこなしていくために必要な能力を有する者を選抜する方法として面接試験を実施する。 面接試験：アドミッション・ポリシー1～5に合致する人間であるかを判断する。 入学選抜は、8月、1月の年2回実施する（申請が認可された初年度入学者選抜は12月上旬と2月中旬に行う）。提出された出願書類の審査および面接を行い、可否を判定する。「出願書類」では、アドミッション・ポリシー2～3に合致する人間であるかを判断するため、履歴書・実務経験報告書に加え、目指す病院経営の姿、現状の経営課題、本専門職大学院で修得を目指す能力について記述する形式の項目を含む。また、所属する組織の長による入学後の学業を承諾する推薦状を合わせて提出することにより、面接試験の受験資格審査を行う。 面接では出願書類審査結果に沿って、「病院経営学」「病院管理学」「医療政策学」に必要な最低限の知識、貢献意欲、主体的行動意欲、発想力、協働力、構想力といった意欲や能力を具体的に示す経験について質問し、評価する。 最終的に書類審査と面接試験審査等を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	---

(改善事項) 医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P)

9. <入学者選抜>
 アドミッション・ポリシー2に掲げる「新しい病院の運営管理を推進する目的意識」の意味するところが判然としないことから、本専攻が入学者に求める「新しい病院の経営管理を推進する目的意識」について改めて明確に説明すること。

(対応)

対応方針・概要

審査意見1および審査意見3への対応に基づき、審査意見を踏まえ、本専攻が養成するより具体的な人材像を再検討し、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの関係性を整理するとともに、アドミッション・ポリシーに掲げた「新しい病院の運営管理を推進する目的意識」については、アドミッション・ポリシー2「病院において指導者として活躍する情熱のある人(リーダーシップ)」、アドミッション・ポリシー3「誠実で協調性に優れ、責任感と倫理性を有し、業務を遂行できる人(優れた成果を創出できる行動特性)」アドミッション・ポリシー4「医療現場で生じる様々な問題の解決に向けて、自ら研究課題に取り組む目的意識のある人(実践する力)」と明確にした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (23 ページ~25 ページ)

新	旧
<p>9. 入学者選抜の概要 【医学研究科 専門職学位課程アドミッション・ポリシー】 医学研究科専門職学位課程では、以下のような人の入学を求めている。</p> <p>1. <u>課程を修了するための十分な医学知識および実務経験を有している人(医療専門職としての能力)</u></p> <p>2. <u>病院において指導者として活躍する情熱のある人(リーダーシップ)</u></p> <p>3. <u>誠実で協調性に優れ、責任感と倫理性を有し、業務を遂行できる人(優れた成果を創出できる行動特性)</u></p> <p>4. <u>医療現場で生じる様々な問題の解決に向けて、自ら研究課題に取り組む目的意識のある人(実践する力)</u></p>	<p>9. 入学者選抜の概要 【医学研究科 専門職学位課程アドミッション・ポリシー】 医学研究科専門職学位課程では、以下のような人の入学を求めている。</p> <p>1. 課程を修了するための十分な医学知識および基礎学力を有している人</p> <p>2. 疾病に苦しむ人の問題解決に向けて新しい病院の運営管理を推進する目的意識のある人</p> <p>3. 病院において指導者として活躍する意欲のある人</p> <p>4. 独創的な発想を有し、自立して研究課題に取り組む情熱のある人</p> <p>5. 誠実で協調性に優れ、責任感と倫理性を有する人</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (11 ページ)

新	旧
<p>【別添】ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー・授業科目とアドミッション・ポリシーの関係</p>	

(是正事項) 医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P)

10. <教員組織>
専任教員数について、専門職大学院設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

対応方針・概要

当初申請時、判定カードの書類不備により、5名について教員審査保留となったため、判定カードを修正し、再判定の手続きを行う。併せて、審査意見を踏まえて、講義・研究内容を変更した教員の再判定手続きに対応した。

(新旧対照表) b 教員組織に関する事項

新 旧 対 照 表 (6月)				
b 教員組織に関する事項				
(医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P))				
区 分	新	旧	担当授業科目名	補 正 理 由
再判定	小松本 悟 ① 専 教授 〈令和5年4月〉	小松本 悟 1 専 教授 〈令和5年4月〉	病院経営学・管理学課題研究	審査意見3に対応し、研究内容を変更したため。
	三浦 公嗣 ② 専 教授 〈令和5年4月〉	三浦 公嗣 2 専 教授 〈令和5年4月〉	医療制度概論 (医療法) ・ 保険医療制度 病院経営学・管理学課題研究	審査意見3に対応し、講義・研究内容を変更したため。
	佐藤 大介 ③ 専 教授 〈令和5年4月〉	佐藤 大介 3 専 教授 〈令和5年4月〉	医療制度概論 (医療法) ・ 保険医療制度 病院経営学・管理学課題研究	審査意見3に対応し、講義内容を変更したため。
	飯島 祥彦 ④ 専他 教授 〈令和5年4月〉	飯島 祥彦 4 専他 教授 〈令和5年4月〉	医療の質管理・患者安全・ 倫理	審査意見3に対応し、講義内容を追加したため。
	藤江里衣子 ⑤ 専他 講師 〈令和5年4月〉	藤江里衣子 7 専他 講師 〈令和5年4月〉	リーダーシップ・ガバナンス	判定カード書類不備により再判定
	松永 眞章 ⑥ 専他 講師 〈令和5年4月〉	松永 眞章 8 専他 講師 〈令和5年4月〉	地域医療・医療マーケティング	判定カード書類不備により再判定
	安田 あゆ子 ⑦ 実専 教授 〈令和5年4月〉	安田 あゆ子 9 実専 教授 〈令和5年4月〉	医療の質管理・患者安全・ 倫理	審査意見3に対応し、講義内容を変更したため。
	村川 修一 ⑧ 実専 准教授 〈令和5年4月〉	村川 修一 12 実専 准教授 〈令和5年4月〉	医療産業論	判定カード書類不備により再判定
	裏 英洙 ⑨ 実み 教授 〈令和5年4月〉	裏 英洙 15 実み 教授 〈令和5年4月〉	病院経営戦略論 実践的に考える組織・人材 マネジメント 多視点から考える総合経営	当初予定していた青木昇 (11) が「不可」(兼任補充可) の判定を受けたため、講義を追加。また、審査意見3を踏まえ、講義内容を変更したため。
	平木 秀輔 ⑩ 実み 准教授 〈令和5年4月〉	平木 秀輔 16 実み 准教授 〈令和5年4月〉	財務会計論・経営分析・コスト分析 医療情報・電子カルテ 病院経営学・管理学課題研究	判定カード書類不備により再判定
	長面川さより ⑪ 実み 准教授 〈令和5年4月〉	長面川さより 17 実み 准教授 〈令和5年4月〉	診療報酬・施設基準・関連法規 DPC・診療情報分析論 病院経営学・管理学課題研究	判定カード書類不備により再判定

(改善事項) 医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P)

11. <その他>

分野別の認証評価について、本専攻の分野の認証評価機関は存在しないものと見受けられる一方で、申請資料として求めている、認証評価機関として想定される団体が文部科学大臣による評価機関の認証を受け、かつ当該専門職大学院が属する分野の認証評価を行う意思があること等を称する資料が添付されておらず、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載された「認証評価を確実に受けることの証明」においても、協議を行った認証評価機関から「別の認証評価機関や評価機関を別途設置するなど検討する必要がある」との意見が示されていることから、当該機関から分野別認証評価を受審することは困難と見受けられる。このため、関係する資料を提出するとともに、適切に認証評価を受ける見込みが整っていることについて改めて明確に説明すること。

(対応)

対応方針・概要

大学基準協会との協議内容を踏まえて、認証評価機関として想定される団体を継続して検討した結果、保健医療分野における医療の質や医療サービス等に関する公益性の高い事業を、約10年間に渡り継続的に実施している「特定非営利活動法人 iSPH」が、病院経営学・管理学領域の認証評価機関として、認証に向けた準備を今後進める予定であることから、当該法人を、本専門職学位課程の認証評価機関として想定する。

当該法人の理事および社員は、公衆衛生学分野の学位(専門職)を有する専門家や、病院経営学の知見を有する専門家あるいはその両方を有する者で構成されている。また、当該法人の設立趣意と経緯から、認証評価を適確かつ円滑に行う法人であると考えた。

令和4年6月 認証評価機関として想定する「特定非営利活動法人 iSPH」と協議し、特定非営利活動法人 iSPH が認証評価の認証を受けるための計画および準備状況等について確認した。また、認証評価の認証を受けたのち、本専攻が認証評価を受審する場合の実施方法について確認を行った。

本協議の結果、当該法人の理事会で認められたことを確認した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (30 ページ)

新	旧
<p>14. 認証評価</p> <p><当該分野の認証評価機関が存在しない場合></p> <p>1) 認証評価を受ける計画等の全体像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年4月 大学院設置準備室を開設 ・令和4年5月 学内検討チームの設置(点検・評価、認証評価の確認) ・令和6年～ <p><u>自己点検・評価の実施(学内の点検・評価)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年8月 認証評価機関として想定される団体との協議 <p>(認証評価の実施方法の確認や認証評価機関としての認証を受けるための手続等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和9年1月 認証評価申請書の提出 ・令和9年4月 評価資料の提出 ・令和9年 <u>書面評価・実地調査</u> <p>2) 認証評価を受けるための準備状況</p>	<p>14. 認証評価</p> <p><当該分野の認証評価機関が存在しない場合></p> <p>1) 認証評価を受ける計画等の全体像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年4月 大学院設置準備室を開設 ・令和4年5月 学内検討チームの設置(点検・評価、認証評価の確認) <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年8月 認証評価機関として想定される団体との協議 <p>(認証評価の実施方法の確認や認証評価機関としての認証を受けるための手続等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年～ 自己点検・評価の実施(学内の点検・評価) ・令和9年1月 認証評価申請書の提出 ・令和9年4月 評価資料の提出 ・令和9年 実地視察 <p>2) 認証評価を受けるための準備状況</p>

<p>・認証評価を受けるための学内体制 学内に自己点検・評価委員会を設置し、毎年の自己点検・評価を実施する。 認証評価申請の前年度から検討チームを設置し、申請に向けた準備を行う。</p> <p>3) 認証評価を確実に受けることの証明</p> <p>・令和4年3月 公衆衛生系専門職大学院の認証評価機関である、公益財団法人大学基準協会と協議した結果、以下の意見をいただいた。 藤田医科大学が新設する専門職大学院は、カリキュラムから判断すると医療経営や医療管理に特化した専門職大学院になるのではないかと考えられ、新しい分野と考えられ、大学基準協会の公衆衛生系専門職大学院の認証評価に該当するかは、計画しているカリキュラムからは難しく、別の評価機関や評価機関を別途設置するなど検討する必要がある。</p> <p>・<u>大学基準協会との協議内容を踏まえて、認証評価機関として想定される団体を継続して検討した結果、保健医療分野における医療の質や医療サービス等に関する公益性の高い事業を、約10年間に渡り継続的に実施している「特定非営利活動法人</u> <u>iSPH」が、病院経営学・管理学領域の認証評価機関として、認証に向けた準備を今後進める予定であることから、当該法人を、本専門職学位課程の認証評価機関として想定する。</u>（添付資料15）</p> <p>・<u>当該法人の理事および社員は、公衆衛生学分野の学位（専門職）を有する専門家や、病院経営学の知見を有する専門家あるいはその両方を有する者で構成されている。また、当該法人の設立趣意と経緯から、認証評価を適確かつ円滑に行う法人であると考えた。</u></p> <p>・<u>令和4年6月</u> <u>認証評価機関として想定する「特定非営利活動法人</u> <u>iSPH」と協議し、認証評価の実施方法について添付資料の通り確認を行った。</u>（添付資料16）</p>	<p>・認証評価を受けるための学内体制 学内に自己点検・評価委員会を設置し、毎年の自己点検・評価を実施する。 認証評価申請の前年度から検討チームを設置し、申請に向けた準備を行う。</p> <p>3) 認証評価を確実に受けることの証明</p> <p>・令和4年3月 公衆衛生系専門職大学院の認証評価機関である、公益財団法人大学基準協会と協議した結果、以下の意見をいただいた。 藤田医科大学が新設する専門職大学院は、カリキュラムから判断すると医療経営や医療管理に特化した専門職大学院になるのではないかと考えられ、新しい分野と考えられ、大学基準協会の公衆衛生系専門職大学院の認証評価に該当するかは、計画しているカリキュラムからは難しく、別の評価機関や評価機関を別途設置するなど検討する必要がある。</p> <p>協議内容を踏まえて意見交換の場として提示いただいた団体、公衆衛生大学院プログラム校連絡会議や公衆衛生専門職大学院連絡協議会とも協議し、また大学基準協会にも引き続き相談し、認証評価機関として想定される団体などを今後も検討し協議していく。</p>
--	--

(是正事項) 医学研究科 病院経営学・管理学専攻 (P)

12. <学生確保の見通し・人材需要の社会的動向>

審査意見1(1)のとおり、本専攻の示す「病院」が、急性期医療機関のような多くの診療科や機能、病床を持つ比較的大規模な病院を想定したものであるのか、クリニックのような機能や病床等が小規模な病院を想定したものであるのか又はその両方を想定したものが明らかではないが、教育課程のみを見れば、前者を想定したカリキュラム構成となっているように見受けられる。一方で、学生確保の見通しにおける定員充足の根拠となっている進学アンケート調査や人材需要アンケート調査は比較的大規模な病院から、クリニック等を含む小規模な病院まで混在しており、アンケート調査対象が適切に設定されたものであるか判断することができない。このため、これらのアンケート調査が、養成する人材像を踏まえた、適切な対象者による回答であることを明らかにするとともに、改めて客観的な根拠に基づき、長期的かつ安定的に学生確保の見通しがあることを明確に説明すること。

(対応)

対応方針・概要

当初は、中部地方をはじめとした全国の病院に所属している医療機関責任者候補となる医師およびその職に就こうと考えている者を対象として、学生ニーズを調べるための進学アンケート調査および人材需要アンケート調査を行ったが、審査意見を踏まえ本専攻の示す「病院」に該当するアンケート調査対象を設定するため、より適切な調査方法を再検討し、中部地方以西に位置する一般病床200床以上を有する病院またはDPC対象病院(約500施設)に所属している病院長および病院経営に関与または関心のある者を対象に、再調査を実施することとした。

再調査の結果、病院長を対象にした人材需要調査では、97名の回答があり、病院経営学・管理学について関心がある病院長は97名(100%)であり、病院経営において、専門的知識を有する者が経営幹部に必要と考える者の割合は94名(97%)と高い結果を示した。また、幹部医師への受験の機会を与えることについては30名、進学推奨についても27名と定員を超える回答が得られた。このことから、現在病院経営を担っている経営者が、将来、各病院の医療機関責任者候補とする者に、本専門職学位課程の知識を学ばせることに強い関心があると考えられる。

進学希望調査では、47名の回答があり、病院経営学・管理学について関心がある者が43名(91%)、病院経営管理学分野における大学院教育の必要性があると考えられる者が46名(98%)と高い結果を示した。また、受験希望および進学希望においても11名が希望すると回答があり、入学対象となる者も、本専門職学位課程の教育内容に対して強い関心があると推定できる。

これらの調査の結果より、本学大学院医学研究科の専門職学位課程設置には、入学対象者および本専攻が想定する病院の病院長へのニーズが高かったことから、長期的かつ安定的に学生確保が可能である。中部以西においては、本専門職学位課程と同構想の専攻は数多くなく、建学理念として「独創一理」を掲げ、創立当初より次代を担う医療人を育成し続けてきた藤田医科大学の強みを生かし、既に病院の現場で活躍している医療従事者等が働きながらも教育を受けやすい環境で本専門職学位課程へ進学し、地域の病院でその経営手腕を発揮し、社会に貢献できる病院経営者および経営幹部専門職の養成を目指す。

(新旧対照表)学生確保の見通し等を記載した書類(3ページ～5ページ)

新	旧
<p>1. 学生の確保の見通し等を記載した書類 2) 定員充足の根拠となる調査結果の概要</p> <p>令和5年度(2023年度)に大学院医学研究科病院経営学・管理学専攻(専門職)を設置した場合、入学の主要対象となる学生は中部地方をはじめとした全国の病院に所属している医療機関責任者候補となる医師である。当</p>	<p>1. 学生の確保の見通し等を記載した書類 2) 定員充足の根拠となる調査結果の概要</p> <p>令和5年度(2023年度)に大学院医学研究科病院経営学・管理学専攻(専門職)を設置した場合、入学の主要対象となる学生は中部地方をはじめとした全国の病院に所属している医療機関責任者候補となる医師である。</p>

初は、中部地方をはじめとした全国の病院に所属している医療機関責任者候補となる医師およびその職に就こうと考えている者を対象として、学生ニーズを調べるための進学アンケート調査および人材需要アンケート調査を行ったが、本専攻の示す「病院」に該当するアンケート調査対象を設定するため、より適切な調査方法を再検討し、中部地方以西に位置する一般病床 200 床以上を有する病院または DPC 対象病院（約 500 施設）に所属している病院長および病院経営に関与または関心のある者を対象に、改めて調査を実施した。

【アンケート調査】（東海地方の病院 140 件、近畿地方の病院 224 件、中国地方の病院 86 件、北陸地方の病院 45 件を対象・令和 4 年 6 月実施）（添付資料 2）

・進学希望調査では、47 名の回答があり、病院経営学・管理学について関心にある者が 43 名（91%）、病院経営管理学分野における大学院教育の必要性があると考えられる者が 46 名（98%）と高い結果を示した。また、受験希望および進学希望においても 11 名が希望すると回答があり、入学対象となる者も、本専門職学位課程の教育内容に対して強い関心があると推定できる。（添付資料 3）

・病院長を対象にした人材需要調査では、97 名の回答があり、病院経営学・管理学について関心にある病院長は 97 名（100%）であり、病院経営において、専門的知識を有する者が経営幹部に必要と考える者の割合は 94 名（97%）と高い結果を示した。また、幹部医師への受験の機会を与えることについては 30 名、進学推奨についても 27 名と定員を超える回答が得られた。このことから、現在病院経営を担っている経営者が、将来、各病院の医療機関責任者候補とする者に、本専門職学位課程の知識を学ばせることに強い関心があると考えられる。（添付資料 4）

アンケートで寄せられた参考意見として、「医療経済、安全管理、感染対策などは、医学教育に必須と考えますが、不十分な現状です。貴学の研究科がこの問題解決の先駆けとなられることを期待しています。」「管理職に就く前に経営を学ぶ機会は必要であり、その仕組みが増えることが望ましい。」との意見をいただいた。また、「修業年限 1 年 6 か月の間、各病院職務と掛け持ちは可能ですか。」との意見もあり、働きながら学ぶ課程に強い要望があることがうかがえた。

これらの調査の結果より、本学大学院医学研究科の専門職学位課程設置には、入学対象者および本専攻が想定する病院の病院長へのニーズが高かったことから、長期的かつ安定的に学生確保が可能である。

2. 人材需要の動向等社会の要請

（2）社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

そこで、関連病院の医療機関責任者の職に就こうと考えている者を対象として、学生ニーズを調べるための進学アンケート調査および人材需要アンケート調査を行った。

・進学アンケート調査（関連病院 130 件、協力病院 342 件を対象）（添付資料 2）

令和 4 年 1 月にアンケートを実施した。その結果、54 人の対象者から「興味・関心がある」との回答があり、そのうち 22 名より「受験を希望する」「進学を希望する」との回答を得た。（添付資料 3）

・人材需要アンケート調査（関連病院 130 件、協力病院 342 件を対象）（添付資料 2）

令和 4 年 1 月にアンケートを実施した。その結果、現在の病院経営者が、将来医療機関責任者の職に就こうとする者に対して、本専門職学位課程の「受験を推奨する」と回答し、合格した場合は「進学を推奨する」と回答した病院は 29 件であった。（添付資料 4）

アンケートで寄せられた参考意見として、「病院経営や管理、リーダーシップ論などを経験しないまま病院長等の管理者に就くと、苦勞して実績が上げられない。実践的な経営大学院となることを期待する。MBA あるいは新たな称号が得られると良い。」「私は既に病院長として、管理者の地位にあるが、特に病院長となるべき専門教育を受けていない。既に病院長職にある者にも、貴科専門職大学院は門戸を開いているか。特に専門の教育を受けずに病院長職にあり、日々経営に悩んでいる者としても、この様な専門教育は、非常に魅力的なものに感じる。」との意見をいただいた。また、「仕事と授業が両立できるかが鍵と思う。」「社会人大学院の制度を充実させて頂きたい。」との意見もあり、働きながら学ぶ課程に強い要望があることがうかがえた。

以上、アンケート結果および参考意見を踏まえて、本学大学院医学研究科の専門職学位課程設置には、入学対象者および地域社会のニーズがあり、定員充足が可能であると考えられる。

2. 人材需要の動向等社会の要請

（2）社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

世界的な人口増加や先進国における高齢化を背景に、医療・健康産業の市場規模は今後拡大を続けるだろう。また、今般の稀にみる新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、医療機関の責任者として強力なリーダーシップ・管理能力が求められる場面が多々あることは容易に想像がつく。地域の医療ニーズや将来需要に応じた病院経営戦略を立案し実行するリーダーシップはもとより、国際医療や海外連携等、国際水準で活躍できる病院長や病院幹部職を担う医師の専門教育が、より一層必要である。しかし、現在、中部地方において専門職学位課程が設置されている医学研究科はなく、時代の要求に沿った将来の病院経営を担う専門職人材を養成するためにも、今回、私立大学である本学大学院医学研究科に病院経営学・管理学専攻（専門職大学院）を設置することは極めて重要であると考えている。

令和4年6月に、中部地方以西に位置する一般病床200床以上を有する病院またはDPC対象病院（約500施設）に所属している病院長を対象に専門職学位課程設置にかかる人材需要アンケート調査を実施した。この調査の結果、本学大学院医学研究科病院経営学・管理学（仮称）専攻（専門職大学院）で学んだ修了生の採用を「希望する」と回答した病院は42件であった。

さらに、このアンケート結果においてクロス集計を行い、病院経営学・管理学に関心のある管理職の医師に対して、本専門職学位課程の「受験を推奨する」と回答し、合格した場合は「進学も推奨する」、修了生の採用を「希望する」と回答した病院は17件であった。（添付資料4）

以上の結果より、本専門職学位課程の修了生が就職を希望した場合に、一般病床200床以上を有する病院またはDPC対象病院等の需要が存在すると考えられ、社会的、地域的な人材需要を含めた社会の動向に応えることができる。

世界的な人口増加や先進国における高齢化を背景に、医療・健康産業の市場規模は今後拡大を続けるだろう。また、今般の稀にみる新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、医療機関の責任者として強力なリーダーシップ・管理能力が求められる場面が多々あることは容易に想像がつく。地域の医療ニーズや将来需要に応じた病院経営戦略を立案し実行するリーダーシップはもとより、国際医療や海外連携等、国際水準で活躍できる病院長や病院幹部職を担う医師の専門教育が、より一層必要である。しかし、現在、中部地方において専門職学位課程が設置されている医学研究科はなく、時代の要求に沿った将来の病院経営を担う専門職人材を養成するためにも、今回、私立大学である本学医学研究科に病院経営学・管理学専攻（専門職大学院）を設置することは極めて重要であると考えている。

令和4年1月から2月にかけて、関連病院および協力病院を対象に専門職学位課程設置にかかる人材需要アンケート調査を実施した。この調査の結果、医療経営・管理系学位取得者を「任用したい」と回答した病院は36病院であった。

アンケートの回答のうち、「経営成長戦略」、「組織管理」を求める具体的な技能として、また「コンサルタント業務だけでなく、事務作業等についても修得している必要がある」などの参考意見をいただいた。

さらに、このアンケート結果においてクロス集計を行い、医療機関責任者の職に就こうとする者に対して、本専門職学位課程の「受験を推奨する」と回答し、合格した場合は「進学も推奨する」、医療経営・管理系学位取得者を「任用したい」と回答した病院は16件であった。

（添付資料4）

以上の結果より、本専門職学位課程の修了生が就職を希望した場合でも、関連病院等の需要が存在すると考えられ、社会的、地域的な人材需要を含めた社会の動向に